

徳島県美術家協会

美術年報

2010



美術年報

2010

徳島県美術家協会

目 次

はじめに	徳島県美術家協会長 佐野 比呂志	1	
徳島県美術家協会規約		4	
平成20年度事業報告		5	
役員名簿(平成22年度)		8	
徳島県美術展開催運営要項		15	
第64回県展記録		19	
第64回県美術展出品・入選等状況		27	
徳島県美術展審査員一覧		28	
第17回放美展記録		32	
各部記録(平成21年度)			
・日本画部	部会長 西野 和男	38	
・洋画部	部会長 柘田 務	41	
・写真部	部会長 櫛渕 魏	50	
・彫刻部	部会長 松永 勉	55	
・美術工芸部	部会長 七條猪三郎	60	
・書道部	部会長 荒井 彭仙	65	
・デザイン部	部会長 福井 章	71	
第64回県美術展審査評		75	
会員名簿			
・日本画部	84	・美術工芸部	92
・洋画部	85	・書道部	93
・写真部	88	・デザイン部	104
・彫刻部	91		
第64回徳島県美術展(県展)公募規定			105
第64回県美術展 特別・招待・無鑑査・賛助出品者名			106

あとがき

はじめに

徳島県の芸術の春の祭典、第17回放美展は、5月2日(土)から6日(水・振替休日)までの5日間、あわぎんホール(県郷土文化会館)で開催された。出品点数1,068点、展示総数628点、入場者数3,775人、盛大に開催され、無事終了した。次回第18回展はさらに飛躍することを願ってやまない。

第64回県美術展は、第1期が10月10日(土)から18日(日)まで、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、デザインの6部門、第2期が10月20日(火)から28日(水)まで書道部門で、あわぎんホール(県郷土文化会館)で開催された。作品の応募総数は例年なみの2,334点、審査の結果、入賞入選858点が選出された。展示数は、特別出品等賛助出品まで含めて、972点となる。県展も64回を重ねて、その内容も年々充実、各部門の審査員からも誉め言葉が多く出ることになる。作家の方々も充分自信を持たれて、日頃の制作活動を充実して欲しい。いつも思うことだが特に多くの中央展以上に厳選である県展を愛し、臆することなく挑戦しつづけておられる出品者の方々には、心から敬意と感謝を表したい。

各部門の活動や、関係団体、協会員の精進も例年に劣らず活発であった。放美展で各部門の最も優れた作品に与えられる放美賞に、日本画で吉田幸さん、デザインで山田悠子さんが受賞し、高校生2人の力が評価されたことは将来に期待が大きい。県展の特別賞は若年からベテランまで幅広く、写真の阿部啓三さんは、珍しく二年連続の受賞で見事な結果となった。

個人の活動の特に目立った作品展を見ていくと、キルト作家小栗加代子さんが、初のパッチワーク作品集〔布、謳う〕を自費出版した。徳島の風景や阿波踊りなどを題材にした鮮やかな作品を収めている。4月29日(水・祝)から阿波銀プラザで出版を記念した作品展も開かれ、多くの愛好家を集めた。「作品は私の生きてきた証し、パッチワークの素晴らしさを多くの人に伝えたい」と話していた。今後益々の活動を期待してやまない。5月12日(火)から17日(日)まで、第8回徳島彫刻集団主催、松永勉展が近代美術館ギャラリーで開催。今春高校教師を退職したのを機に、過去10年間に制作した15点を展示。自然や生命の循環表現を感じさせる作品展であった。あわぎんホールで開かれた四十宮年代展

も旺盛な制作活動を見せた。40年記念展で、創る、彩るのサブタイトルそのまま、愛好者にとっては賞讃の声が高かった。5月の最終日3日間、シビックセンターで、絵と阿波郷土史展、三好昭一郎・初子の二人三脚で走り続けてきた50余年の歳月に生まれた作品展が展示発表された。出品目録と解説の図録も作り、会場の雰囲気も申し分なく、観覧者にとっては最高に満足できる理想的な作品展であった。6月12日(金)から14日(日)まで、県立文学書道館で、傘寿記念春藤大耿書作展が開催、5年前の喜寿個展に続いての作品展で、その熱意と努力は私たち作家にとっては範として敬意を表したい。俳誌「青海波」の主宰の斎藤梅子さんと長男八郎さんの親子絵画展も、文学書道館で開かれ、梅子さんの日本画15点(県展特選作をふくむ)、7才で県展最年少入選した経歴をもつ八郎さんの近作の人物画や、小学生時代の代表作を並べた。八郎さんのブランクを感じさせない洗練された作品と、梅子さんの俳句だけにとどまらない才能に来場者は驚いていた。7月4日(土)から7月12日(日)まで、河崎良行さんの作品展が新蔵町の徳島大学地域・国際交流プラザで始まった。アルミや鉄、ステンレスを素材に使った作品15点を展示、実際に屋外で展示されている作品も写真で紹介。「金属と環境との調和を楽しんでほしい」と作者は話していた。県立近代美術館ギャラリーで、沢口功・アート展が開催された。第26回県美術展に新しく設けられたデザイン部門に出品、特選第1席を受賞した。それから38年間の作品の中から選び、作者の自信作品展となった。8月に入って、橋本正弘と仲間たち展があわぎんホールで開催された。橋本さんが第1回とくしま芸術文化賞を受賞し、その記念の展覧会である。橋本さんは3点の力作を発表、仲間60名余りの作品もそれぞれ魅力的であった。12日(木)から16日(日)の盆と重なる日程で、南城ミツ子さんの阿波踊りを描き続けて20年、傘寿を迎え初個展があわぎんホールで盛大に開催された。県展や日展で活躍し、日展の常連、県展では特別賞の知事賞を受賞、阿波踊りを描いては日本でも右に出る者なしの作品展で、あふれる生命力の表現にまで到っている。10号から100号の60点余りの作品のうち約半数が阿波踊りで観覧者も圧倒された。徳島郵趣会では阿波踊りを全国にPRしようと、絵はがき1,600枚を作ることもなった。阿波銀プラザの上野照文さんの阿波踊り写真展「阿波の煌めき」も踊り子たちの輝く瞬間が巧みにとらえられて見事であった。

東京通信によると、再開発が進む東京・東五反田地区に完成したオフィスビ

ル「東五反田スクエア」の入り口に、河崎良行さんの作品「風のバリエーション」が設置され、通行人の目を引いている。河崎さんは、野外彫刻の普及や都市デザインの発展に尽力されている。終わりに特記しますが、昨年まで洋画部委員をされていた、柏木雅雄さんが秋の叙勲で瑞宝雙光章を受けられました。心からお祝い申し上げます。私佐野も、旭日雙光章を受けることができました。

今年もまた訃報の言葉を記すことになった。日本画の荻野行夫さん、洋画の黄田博司さん、写真の中野建吉さんが亡くなった。荻野さんは美術家協会ができて以来の長年の功労者で人間的にも温厚誠実で魅力的であった。洋画の黄田さん、写真の中野さんもこれからさらに活躍していただきたい方々で惜しまれてならない。心からご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、四国放送（放美展）、徳島新聞社（県美術展）並びに、県美術家協会の皆様方に、心から感謝するとともに、ますますのご発展をお祈りして、はじめの言葉といたします。

平成 22 年 3 月

徳島県美術家協会会長

佐 野 比呂志

徳島県美術家協会規約

昭和23.	9.	12	規約制定
32.	7.	14	新規約制定
33.	4.	29	規約一部改正
42.	4.	23	〃
46.	4.	29	〃
47.	5.	29	〃
49.	8.	22	〃
52.	7.	23	〃
56.	5.	5	〃
58.	6.	5	〃
61.	6.	21	〃
平成4.	6.	27	〃
6.	6.	25	〃
10.	6.	27	〃

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長(2名)
理 事(若干名) 監 事(2名)

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、

31名以上の部にあっては、さらに10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員(部会員数の3割以内)
部監事(2名)

役員は部総会で選出する。役員任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館(徳島公園内の県立図書館)内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッヂを選定(図案は鬼塚副会長)

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名~5名)によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。

平成20年度 事業報告

- (1) 総 会 ◇平成20年6月7日(土)
◇県郷土文化会館 5F第6会議室
◇平成19年度事業報告及び決算報告
◇監査報告・承認
◇平成20年度事業計画及び予算審議
◇その他
- (2) 第16回放美展 ◇平成20年5月2日(金)～5月6日(火・振休)
◇県郷土文化会館 3F全展示室及び4F会議室(会議室2～4)
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザインの671点
展示
◇受賞者表彰式 平成20年5月6日(火・振休) 県郷土文化会館
- (3) 第63回県美術展
◇第1期 平成20年10月4日(土)～12日(日)
県郷土文化会館 3F全展示室及び4F会議室(会議室2～4)
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザインの580点展示
◇第2期 平成20年10月14日(火)～22日(水)
県郷土文化会館 3F全展示室
書道の405点展示
◇第63回県展表彰式 平成20年10月12日(日) 徳島新聞社7F会議室
- (4) 県展・放美展会議
◇第63回県展運営委員会・県展事務局員会議(20. 8. 18)
◇第64回県展運営委員会・県展事務局員会議(21. 2. 27)
◇第16回放美展運営委員会(20. 4. 24)
◇第17回放美展運営委員会(20. 12. 8)
- (5) 各部会行事 ◇洋 画 部
第22回洋画部会員展(20. 5. 22～25) 県郷土文化会館
◇写 真 部
「京都：源氏物語千年の行事」撮影会(20. 6. 22)
◇デザイン部
部会展「ウソ(USO)」(20. 10. 28～11. 3)
クレメントプラザ4F

- (6) 各種後援
- ◎第21回長玄書道会展 (20. 4. 4～6)
 - ◎第9回ニコールクラブ徳島支部写真展 (20. 4. 12～14)
 - ◎第7回大貝久義個展 (20. 4. 12～30)
 - ◎第53回成蹊書道会展 (20. 5. 2～4)
 - ◎第15回記念大叢会書作展 (20. 5. 9～11)
 - ◎第2回大塚政孜油彩画展 (20. 6. 3～7. 6)
 - ◎徳島アート21 第6回展 (20. 6. 4～8)
 - ◎第31回「炎」作品展 (20. 6. 6～8)
 - ◎第26回双愛会書作展 (20. 6. 13～15)
 - ◎第31回八紅展 (20. 6. 19～22)
 - ◎第29回東光会徳島支部展 (20. 6. 20～22)
 - ◎第5回記念五果会書展 (20. 6. 27～29)
 - ◎第26回徳島平和美術展 (20. 7. 3～6)
 - ◎書道特別展「小坂奇石書作展～九十年の情熱～」 (20. 7. 5～8. 17)
 - ◎第2回阿南デジタル写真展 (20. 7. 7～11)
 - ◎吉野川市文化協会 第4回総合美術展 (20. 7. 19～21)
 - ◎三塊書展 (20. 7. 25～28)
 - ◎第22回四国大学文学部書道文化学科教員展 (20. 7. 26～8. 3)
 - ◎第67回世代美術展 (20. 8. 7～10)
 - ◎第4回市場油絵会 (20. 8. 12～16)
 - ◎全国巡回陶芸創作展 (20. 8. 16～21)
 - ◎第64回青年美術家クラブ展 (20. 8. 21～24)
 - ◎第22回徳島花を写す会写真展 (20. 8. 22～24)
 - ◎第53回書協入展 (20. 9. 5～7)
 - ◎第40回石井美術の会作品展 (20. 9. 11～15)
 - ◎第71回書芸院展 (20. 9. 12～15)
 - ◎第37回徳島雪心会書作展 (20. 9. 13～15)
 - ◎第32回15人展 (20. 9. 18～21)
 - ◎第12回旺美展 (20. 9. 18～24)
 - ◎第48回写楽会写真展 (20. 9. 26～29)
 - ◎第20回記念睦月会書展 (20. 10. 1～3)
 - ◎第14回六書会書展 (20. 10. 3～5)
 - ◎第14回徳島障害者芸術祭 エナジー2008 (20. 10. 7～12)
 - ◎書道特別展「生誕230年記念・貫名菘翁展」 (20. 10. 11～11. 24)
 - ◎第8回大貝久義個展 (20. 10. 12～31)
 - ◎第20回“療”4人展 (20. 10. 30～11. 3)
 - ◎第23回藍美展 (20. 10. 30～11. 3)

- ◎第35回記念双暢会書展 併催 国際書画展 (20. 11. 1～4)
- ◎第6回徳島版画展 (20. 11. 20～24)
- ◎第4回美馬市文化祭文化講演会「書を語る」 (20. 11. 22)
- ◎第38回芳藍書道展 (20. 11. 22～24)
- ◎第4回吉野川市書人会作品展 (20. 11. 22～24)
- ◎第3回写真同人「光」写真展 (20. 11. 24～28)
- ◎第7回一心会書展 (20. 11. 28～30)
- ◎日本リアリズム写真集団 徳島支部写真展 (20. 11. 28～30)
- ◎第2回春琴とその仲間たち「童謡を書く展」 (20. 11. 29～12. 1)
- ◎第13回尚真会展 (20. 12. 5～7)
- ◎第29回臨池会書展 (20. 12. 6～7)
- ◎第37回歳末チャリティ作品・色紙即売展 (20. 12. 13～15)
- ◎第23回正鋒会書作展 (20. 12. 19～21)
- ◎第12回せせらぎ書展 (20. 12. 20～22)
- ◎玉城乾香書の世界～果てしない書の旅 (21. 1. 10～12)
- ◎第33回東玄書道会展 (21. 1. 17～19)
- ◎88人の写真展～荒井賢治と歩む写真の世界 (21. 1. 22～26)
- ◎第14回退教協 悠美展 (21. 1. 23～25)
- ◎第4回桂和会書展 (21. 2. 13～15)
- ◎第40回ナルトぴんぼけクラブ写真展 (21. 2. 13～15)
- ◎第34回四国大学文学部書道文化学科卒業制作展 (21. 2. 19～25)
- ◎第29回書研社展 (21. 2. 20～22)
- ◎第42回モダンアート徳島支部展 (21. 2. 26～3. 2)
- ◎第43回書道研究 清潮書作展 (21. 3. 6～8)
- ◎第72回徳島書芸院 春の書展 (21. 3. 12～15)
- ◎第8回現代墨絵・彩墨画展 (21. 3. 13～15)
- ◎第1回絵画教室 アワ・アート作品展 (21. 3. 18～22)
- ◎第27回青彩美術展 (21. 3. 26～29)

徳島県美術展開催運営要項

第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展「以下(県展)という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

第2条 (主催団体)

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

第3条 (開催運営の組織)

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長・副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から3名の合計21名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 開催運営の基本事項について審議決定すること。
- 2 審査員の推薦決定に関すること。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認に関すること。
- 5 その他県展開催に必要なこと。

〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部会から2名、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社2名の計17名で構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
- 3 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
- 4 収支予算案の作成に関すること。
- 5 開会式、表彰式の準備に関すること。
- 6 広報PRに関すること。

7 その他県展開催の下準備に関すること。

第4条 (出品部門)

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。

その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

(1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

(1) 特選を連続3回得たもの。

(2) 年問を問わず特選を4回得たもの。

(3) 年問を問わず特選及び準特選を6回得たもの。(特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする)

(4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

(1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。

(2) 各部の会長を永年勤めて実績があり、運営委員会の議を得た方。

(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

第7条 (審査)

審査は公開により行う。

第8条 (入選、入賞数)

1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	特 選	特別賞 (特選の中から1点)	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	2	四 国 放 送 社 長 賞	3	3 以 内	規 定 数
洋 画	3	徳 島 県 美 術 家 協 会 長 賞	6	5 ♪	♪
写 真	4	徳 島 県 知 事 賞	9	8 ♪	♪
彫 刻	1	徳 島 県 議 会 議 長 賞	2	2 ♪	♪
美 術 工 芸	2	徳 島 県 教 育 長 賞	4	3 ♪	♪
書 道	8	徳 島 市 長 賞	14	13 ♪	♪
デ ザ イ ン	2	徳 島 新 聞 社 長 賞	3	3 ♪	♪

※特別賞は各部門とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。
賞はいずれも同格で毎年部門により1つずつ変更し賞を贈ります。

2 入賞は1人1賞とする。

第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金7万円
- 2 準特選……賞状、賞金3万円
- 3 奨励賞……賞状、記念品
- 4 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 徳島県知事賞 1名
- 2 徳島県議会議長賞 1名
- 3 徳島県教育委員会教育長賞 1名
- 4 徳島市長賞 1名
- 5 徳島新聞社長賞 1名
- 6 四国放送社長賞 1名
- 7 徳島県美術家協会会長賞 1名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

第10条 (収支予算)

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2月に開催する運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 (出品料・協賛費)

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

- 1 県美術家協会会員の出品料は、1点目3,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 2 一般の方の出品料は、1点目4,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 3 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は、1点3,500円とする。

第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

- | | | | | | |
|---|--------|-----|------|----|------|
| 1 | 一般・大学生 | 前売り | 500円 | 当日 | 700円 |
| 2 | 高校生 | 前売り | 250円 | 当日 | 300円 |

第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

- | | |
|------------|------|
| 平成4年2月22日 | 一部改正 |
| 平成4年5月16日 | 一部改正 |
| 平成8年5月25日 | 一部改正 |
| 平成11年5月14日 | 一部改正 |
| 平成13年5月30日 | 一部改正 |
| 平成14年9月25日 | 一部改正 |
| 平成17年6月14日 | 一部改正 |
| 平成18年2月15日 | 一部改正 |

第64回県展記録

会期 (第1期) 平成21年10月10日(土)~18日(日)

(第2期) 平成21年10月20日(火)~28日(水)

会場 あわぎんホール (県郷土文化会館)

日本画

- 〔審査員〕 西田 俊英
- 〔特別出品〕 長尾 弘子 西野 和男
- 〔招待〕 橋本 正弘 中川 健 岡 英彦 土方るみ子 土井 洋子
中西 芳雄 日浦 猛史
- 〔賛助出品〕 長谷 壽
- 〔特選〕 森崎 雅子 (四国放送社長賞)
平野 真里
- 〔準特選〕 梶浦 千瑞 石原 千鶴 吉田 幸
- 〔奨励賞〕 仁木 正子 柳田 一子 坂 容子
- 〔入選〕 三谷 浩三 江上 豊 大塚さや香 島山 耀子 伊丹 さよ
吉本 悦子 清水佳代子 藤村ミチヨ 天羽 弘毅 鈴木 恵子
宮越 千佳 斉藤 敦美 島田 健作 片山ヤス子 岩脇 恵子
森本 秀代 澤 真弓 中嶋 昌子 井上 弘子 大黒 規子
新居麻里子 富永 博子 泉 福美 反田 卓 秋月ヒサヨ
藤井 吉信

洋画

- 〔審査員〕 塗師祥一郎
- 〔特別出品〕 佐野比呂志 榊田 務
- 〔招待〕 清水 亟悞 楠瀬 等 露口 敏幸 長尾 弘久
- 〔賛助出品〕 岡 多美子 河田 安市 黒崎 志郎 後藤田仁一 松川 寛
岡田 守 中辻奈美枝
- 〔無鑑査〕 南城ミツ子
- 〔特選〕 竹内 れい (徳島県美術家協会会長賞)
藤井 香世 香西 咲紀

〔準特選〕	伊勢 浩章 藤本 千秋	戸井 李名	青木 幸子	土橋 正子	福田 遼子
〔奨励賞〕	笹田 義宏	田浦 佳江	小笠 正明	越久 高照	原田 咲
〔入選〕	岸本 花子 手塚てる子 東原 綺子 杉本 祥子 眞鍋たえ子 田中シゲミ 丸関 朋子 馬淵 博子 森 あやね 加川由紀子 中島 洋子 林 康太郎 田中 康子 加賀谷愛美 島津 千尋 吉田千枝子 市川 志津 大西 文代 野口 義仁 中川 清隆 為実美恵子 倉橋 紀子 森本 仁美 川口 均	西崎 志帆 福本 恵 岡田 博信 富浦 道子 後藤 瑞稀 藍谷 浩平 福良 哲子 山村ひろ子 小笠原秋子 西川 周三 西川 敬子 梶川 穂波 片山美代子 尾崎 隆幸 坂東 富恵 細川 禮子 鈴木 敬子 松浦 英子 武田 洋子 住友 義彦 青木 成実 久保 和子 藤本 友香	和田 寿子 林 敏雄 伊良原貞子 松下 総子 橋本 健男 熊谷美智子 高木 紘子 篠原 昭子 富岡 晴恵 玉田 秀子 蔭山賀代子 野口 暁子 前川 富子 柏木 安代 富田 君子 瀧川 勝雄 西條 明彦 馬淵 尚子 三宅 勝一 増喜 昭文 松尾 実 井内美智代 東 紀美子	島村 英之 森 和子 阿部 昌子 野上 恵子 米沢 博 佐藤 敬子 伊丹 三郎 山口 明美 増井 厚子 米津 良子 日出美佐江 上田 幸子 川中比沙子 佐々木公子 前川フキ子 黒島 貞子 大西 道夫 尾西 敬子 前野 亮治 結城 栄子 原 たず 林 文子 渋谷志津子	村上 富子 谷口 園 山口トシ子 辻 真衣 渡部 笑菜 赤松 伸一 宮田 京子 仁木 英子 藤崎 恭子 近藤 克子 宮本 典代 野村 雅子 河本多恵子 西川 照美 和田津かね子 大津 憲文 田中 信幸 白草 由子 妹尾 真澄 坂東 弘子 小浜 敏也 平島 蓮美 二條 均

写真

〔審査員〕	田沼 武能				
〔特別出品〕	西條 征二	櫛淵 魏			
〔招待〕	井上 光雄 上野 照文 林 敏彦 柳本 正	木田 英之 森 賢一 古井 謙吉 大和 健司	勝西 雅夫 橋本 圭祐 中野 建吉 船越 正文	笹田 敏雄 前浦 芳久 井藤 光章 堀淵 完治	三好 和義 荒井 賢治 増田 寿 久保 英樹

	岩崎	英昭							
[無鑑査]	森住	博							
[特選]	阿部	啓三	(徳島県知事賞)						
	矢部	弘子	志摩	育美	林	広司			
[準特選]	吉村	敏嗣	瀧花	性善	泉	清美	川西	明雄	福原
	多田	進	内藤	晃	富加見	美枝	姫野	博司	
[奨励賞]	井上	翔	伊勢	勝彦	吉田	圭作	原田	武二	下山
	西岡	まゆみ	高島	武夫	赤尾	壽一	田中	義孝	久男
[入選]	久我	千鶴	櫛淵	紳哉	宮本	幸治	堀口	幸男	森住
	中垣	節	川口	進	佐野	辰夫	滝島	豊美	三木
	大津	勝治	住友	登	野藤	敏美	多川	静守	富沢
	中野	みどり	島	昌史	山橋	良治	大西	雅子	坂野
	臣守	澄江	姫田	慎治	池田	啓子	梅本	貞範	榎本
	大西	賢	喜屋田	義雄	久保	翠	郡	訓子	四宮
	阿部	一雄	二階	博司	大田	修	石本	隆二	笹尾
	山田	稔	田中	真由美	谷	嘉明	棚橋	仁志	辻
	土橋	成行	堤	信寿	富岡	佳代子	日出	顕作	佐竹
	林	好一	三原	弘枝	市川	正二	新居	修	中川
	新居	丈市	矢野	志江	阿部	和剛	西岡	祥一	野口
	橋本	勝	早淵	茂	原田	章一	板東	律雄	平澤
	平野	史子	福永	豊	富士	弘子	藤田	貞義	正見
	松浦	孝	松崎	真弓	松原	玲子	村上	富太郎	森内
	久保	祐一	森崎	敦子	山口	正明	山本	雅敏	米塚
	渡邊	信二	島	廣幸	熊谷	美智子	関口	つとむ	岸
	谷	ひづる	稲井	芳男	米田	道代	幸山	元子	鳥井
	吉岡	伸夫	岡久	吉徳	板東	よしお	埴淵	節子	飯田
	守中	和代	宮本	利光	岩本	宏子	葉田	正敏	櫛谷
	喜多	昌弘	大栗	隆夫	山川	光磨	田中	伸廣	井上
	庄野	里美	宮前	稔	福井	邦博	福井	純子	加藤
	武林	恭史	佐藤	考利	住友	徳	河田	清	梶村
	元木	強	辺見	博子	長岡	和美	有馬	正司	木下
	笠井	孝純	坂田	一郎	小川	勝	小原	治	西條
	佐藤	進	稲垣	喜修	福多	俊朗	伊達	照子	高見
	野口	佳一	川真田	慶治	井上	憲治			喜美男

彫 刻

- 〔審査員〕 津田 裕子
- 〔特別出品〕 河崎 良行
- 〔招待〕 佐藤 隆 井下 俊作 鎌田 邦宏 松永 勉 居上 真人
上月 佳代
- 〔賛助出品〕 長岡 強
- 〔特 選〕 高丸 公相 (徳島県議会議長賞)
- 〔準特選〕 木村 大志 山橋大二郎
- 〔奨励賞〕 東 光司 那須 豊之
- 〔入 選〕 齊藤 綾子 吉川 奈未 武田亜希子 吉田祐子・阿部俊江・近藤照子(合作)
米津 宏一 井上 晶絵 坂本 海 中 あゆみ 入村友佳子
新居千枝子 増田 有美

美術工芸

- 〔審査員〕 竹内 順一
- 〔特別出品〕 七條猪三郎
- 〔招待〕 高橋 勇 多智花佐代子 松下 雄介 松下 慶一 森 賢一
橋 恵 犬伏 絢
- 〔賛助出品〕 中川 存 矢野 款一
- 〔特 選〕 松下 敏之 (徳島県教育委員会教育長賞)
前田 道子
- 〔準特選〕 下内 良一 大西 君代 矢野 藍游 大西 道夫
- 〔奨励賞〕 相原 良平 佐藤 松子 太田 裕子
- 〔入 選〕 吉田 陽子② 四十宮年代② 武田 潤子 大貝 寿子② 古谷 清美
浅山 義明 南 郁代② 佐治 孝 秦 信子 石川多美子
越 由子 南 泰樹② 山村 啓子 玉木 隆子 木田サチコ
横井嘉世恵 丸居 哲雄 石井 春夫 新槇 洋一 中西 達也
西窪 弘 近藤 川津 小川 光 野村 裕子 松原 敦子
田中木美子 阿部真由美 長尾 敏子② 稲井 峰子 家形笑美子
高瀬 裕司 阿部 巍 浜口 武夫 柏木ます代 板東 啓子
松葉恵美子 里見 正威 大木 真澄 横井 直美 妹尾 文子

加藤 伴江	平岡英津子	山口 葉	大貝 貞雄③	伊丹 将博
河野さえ子	平尾 静子	真鍋 謙弘	亀井 良子	美浪 文
吉田 和子	西内 貞二	高松 正彦	新居久美子	手塚 健一②
谷口 武平	平瀬 進也	龍木 秀子	吉田 眞弓	吉田 敏明
小林 鳳美	寺島喜代子	多田 雅子	梶原 浩二	福本美智代
矢野耕市郎	阿部 和剛	田村 惠子	森 克江	楠 博子
清崎 敏廣	仁田 和子	島崎 明美	小栗加代子	青木 壽美
松本 宏	小林 義治	井内 晃俊	釜内 哲子	曾江 司
鈴江 正子	天羽 惠子	大上 稔子	鳥井 明子	吉田 祐子
柳本明日香	内藤 久子	戸島 裕明	綾野 昌子	天野 和子
近藤佐起江	山下壽美代	前野 亮治	加藤 和美	椎野 隆子
藤中 教代	斎藤 和彦	清原 眞弓	田村 佳代	矢野 藍游
安富 順子	近久千加代	三橋 玄児	田村栄一郎	黒川 佳代
田村 純子	森 明治	鍋島アヤ子	林 恵子	石田 節子
小出 美子	藤井 哲信	清水 晶子	谷口 治	萬藤 武徳

書 道

〔審査員〕	鈴木 春朝	山本 高邨	砂本 杏花			
〔特別出品〕	新居 藍州	荒井 彭仙				
〔招待〕	宮井 青雨	長原 皋聖	西 南龍	成尾 莊秀	原田 霄月	
	芝原 醒鶴	前川 古舟	清水 桂月	美馬幾美賀	春藤 大耿	
	中谷 史子	長谷 美峰	勝瀬 景流	川上 虹泉	近藤 静苑	
	日下 溪翠	岡島 順子	竹田 和代	山口 華城	藤若 美風	
	武市 鳴雲	中尾 勝子	富久 鳴泉	永松 春苑	島田 小園	
	坂本 霄風	浜 佳香	隅田 英二	松本 清香	多田 清芳	
	玉城 乾香	薄田 玲泉	能仁 華瑤	高田 青蓮	三浦富美代	
	宇山 泰鳳	亀石 文苑				
〔贊助出品〕	東 南光					
〔無鑑査〕	米澤 司子	岩本 雅三	平岡 郁子			
〔特選〕	詫間 勝子 (徳島市長賞)					
	東野 恵巳	谷本 洋子	四宮 千春	佐野 陽子	宮守 とみ	
	長原 七与	幸田 康代				
〔準特選〕	中村 美子	後藤 紀代	戸出 浩子	鈴木エリ子	春藤 真紀	
	佐藤美智子	上田 久恵	遠藤 孝子	皆谷 露子	久積希実子	
	佐藤 恵子	玉城 若菜	大津 明美	林 浩一		

〔奨励賞〕	福家 佳余	春藤 秀子	八木 澄江	谷本真由美	森 裕美子
	山本 美幸	加村喜美子	朝三 和子	遠藤玻都恵	吉田さい子
	富永美知子	村田 泰輝	蓑毛 真琴		

〔入 選〕

漢字の部

平野 実	西村 宣昭	冨崎かおる	澤本 鈴美	節 品子
吉平 順子	永岡ツタエ	河野久美子	石井 瞳	山内希与子
中尾三智子	中川 恵	中川 博雅	浅川 陽子	金子 博明
平田 真紀	横田 典子	坂東 愛子	川村 真澄	土井麻奈未
丸岡 由美	大松加津代	谷 令子	大西 好子	土井 和也
吉村 敬子	矢部 知子	美馬 潤子	阿部 千明	近藤 美香
谷 弘美	鳩成 広美	森本 裕子	宇山 和治	藤岡千江子
大塚 洋子	藤山真由里	青木 博美	沖田 章代	熊代 厚子
佐々 京子	安友 彰子	遠藤 典子	河見 忠信	西岡田さつき
藤村 恭子	田中 偉嗣	村沢健太郎	杉下 喜清	仲道 裕馬
小林 忠志	大平美代子	若木 恭子	粟飯原優子	川人 明香
前田 麻子	柏尾美恵子	稲井 知子	馬居美智恵	田上 洋子
片山 芳明	中西 淑子	山下弥栄子	米木由美子	井上 公子
弘田 敏章	福永久美子	稲木 裕美	洲崎 忠雄	山中 佳子
辻 光雄	山城美三子	松本 雍司	益岡 輝実	酒井やすえ
本田千津子	大本由紀子	荒井 和子	林 みゆき	坪井恵利佳
大塚 唯士	恵美 恵子	岡部ひとみ	駒田 澄子	高橋 信子
白山富美絵	笠井 仁美	服部 弘子	高柳 由美	遠藤 清子
井上 真梨	河野 梅子	伊達三智子	渡部 俊子	河野多美子
立石 泰生	高力 麻衣	多賀 晴代	忠津 安子	三條 宣隆
吉田 幸代	東川 真美	勝浦 美和	藍野 壽美	岸本 廣江
小川 幸子	竹田千鶴子	萩原 陽子	吉川 芳子	中川恵美子
杉本 妙子	上野 益代	陶久 房枝	笠原 笑子	四宮 恭子
奥田 文子	岡本美津代	岸 浜子	村部 幸子	大和 公代
桑田 次雄	西改 俊子	三崎美佐代	大下 富江	大野シゲ子
折野 茂幸	飯田 公子	上田美千代	川辺 光俊	北村 浩子
豊浦 佳子	松永 浩子	細井 守	西野 道夫	多田 美咲
三好 啓子	渡部 敦子	岡本 朱美	南 知枝	大地まゆみ
磯川 味佳	鈴木 正友	荒川 佳子	野口 有香	森本真由美
辻 尚子				

篆刻の部

田淵 勲	西堀 柳亀	小林 義治	射場 博子	上田 忠敬
瀬尾 香苗	武市 彩伽	丸西真菜美	吉村 敬子	内田 道幸
住友 通瑛	横田 雅夫			

仮名の部

阿部 博子	松本トキ子	桑原 亮介	藤岡都喜子	川村 重子
住友 春子	富山 康江	井上 智世	中谷つや子	藤原 育代
出口末喜子	高橋加奈子	川口 珠枝	吉田 幸子	佐藤 恵美
住友 裕子	背川 章子	松本由希子	河野紀代子	中原久美子
井上 彰夫	井内 光子	竹内 英子	井上 まり	関 藤子
一ツ松真弓	石橋 輝雄	沖野 道代	豊岡真由美	岡島 公子
野上 美紀	遠藤 由子	森 弥生	赤川久美子	佐川 公子
倉本 節子	湊 泰子	繁崎登美子	水口 久枝	福村喜代子
野口 和子	大西 順子	藤本 晴美	古谷 和代	井上小百合
向井 境子	折野 佳子	南本 智子	飯尾 清	山本 愛美
金子 博明	小西 千恵	町田 哲子	福島 由子	原田 葉子
高木美賀子	藤井三樹子	畠山 政子	山橋不二子	内田 麻紀
田岡佐記子	梶 真理子	贄田美恵子	山本 恵子	須見智香子
東 弥生	伊藤 秀子	永岡ツタエ	坂本 敬子	島田 利枝
吉岡 榮子	近藤真千子	芳田 知子	久住 律子	中筋 良江
平尾 卓美	内田美代子	向井 京子	田村富士子	

近代詩文の部

芦谷 后子	岩崎 麻美	上田由美子	遠藤 禎子	大井多鶴子
大石 正	大西 英子	大西千鶴子	岡崎 啓子	小野 幸久
川下小夜子	河野 富子	川端喜美子	木田 史子	木内 典代
桐生 弘美	栗林 和江	栗山 弘子	桑村 清	児玉 幸子
坂尾 俊一	榊原早知子	定本 宏美	庄野ゆかり	高瀬 善郎
武田 淳子	谷本 清子	玉城 豪	長尾由美子	仁木シモエ
野田 満代	野田 洋子	橋本 君代	春川 登	福山 啓子
藤本 優子	本浄 貴子	松岡 文子	丸岡 良子	丸田 三恵
森浦 和子	森本 陽子	矢野 照代	山口 文子	若林 節子
和田 悦代	和田富美子	渡邊 亜希	森岡嗣雅子	荒井 弥和
居和城幸代	茶谷 文子	萩原 礼恵	松村 雅子	三村 光子
山本 陽子				

前衛の部

梶川 佳奈	枘富 年子	渡辺由紀子	大胡恵里香	里見 真美
阿部 公恵	麻植塚由佳	大胡 真美	長崎 香	三浦 みや
井内 梨加	内田 亜美	中村 優里	川口 朋子	三倉 唯
湊 優子	永井 厚子	西岡 珠子	中川 博雅	島尾 明良
中川 富量	義富 博正	佐藤由紀代	中川 貴俊	中川 洋子
松本真理子				

デザイン

〔審査員〕 河北 秀也

〔特別出品〕 福井 章 坂本三千一

〔招待〕 斎藤 繁次 坂野美恵子 敷島のり子

〔特選〕 谷口 佳織 (徳島新聞社長賞)
一宮 美穂

〔準特選〕 峯川紗也子 千崎 太郎 西林 良枝

〔奨励賞〕 斎藤志津子 近清さよこ 森本 菜月

〔入選〕 四宮 光理② 吉村 敏嗣② 吉本たみこ 三木由佳里 林 敏雄
篠崎 未来 松原小百合 中尾 茉由 松原 彩音 坂田優里菜
楠 美波 藤本 愛美 野中 弘美 堀貫 裕子 斎藤志津子
山中菜都美② 峯川紗也子 宮城 佳恵 高田 悠希 堀田 成美
西 利咲 笠井 茉美 西條 明彦 西林 良枝 斎藤 剛
明樂 晴子 左海 紗佳 四十宮隆志② 佐伯 奏美

第64回県美術展出品・入選等状況

部門 区分		日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	計
出品数		56	357	767	26	226	824	78	2,334
人数		55	253	262	26	161	539	53	1,349
入 選	率	60.7%	36.4%	19.6%	61.5%	58.8%	43.0%	52.6%	36.7%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	2	3	4	1	2	8	2	22
	準特選	3	6	9	2	4	14	3	41
	奨励賞	3	5	9	2	3	13	3	38
	入選	26	116	128	11	124	319	33	757
	計	34	130	150	16	133	354	41	858
落 選	率	39.3%	63.6%	80.4%	38.5%	41.2%	57.0%	47.4%	63.3%
	落選	22	227	617	10	93	470	37	1,476
招 待 等	特別出品	2	2	2	1	1	2	2	12
	招待	7	4	21	6	7	37	3	85
	無鑑査	0	1	1	0	0	3	0	5
	賛助出品	1	7	0	1	2	1	0	12
	計	10	14	24	8	10	43	5	114
展示数		44	144	174	24	143	397	46	972

◎特別賞は特選の内数である。

徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	[野 間 仁 根 家 永 騏 三郎]	委 員	
2	大 栗 旌 仟	野 間 仁 根	上 田 備 山	[太 田 三 郎 坂 東 文 夫 鹿 東 三 郎 内 芳 洲]
3	委 員	伊 原 宇三郎	同 上	
4	委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝之介	小 野 由 行	[太 田 三 郎 坂 東 文 夫]
6	西 山 英 雄	伊 藤 繼 郎	川 崎 亀太郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	[太 田 三 郎 坂 東 文 夫]
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	[鈴 木 信太郎 野 間 仁 根]	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	[辻 東 晋 堂 坂 生 文 夫 針 一 郎]
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘 治郎	同 上	安 田 周 三郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ムキ子	岩 宮 武 二	堀 植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿 岐 羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23	松 岡 政 信	山 下 大 五郎	同 上	井 上 武 吉
24	山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄
25	奥 村 厚 一	齐 藤 真 成	同 上	原 武 典
26	梶 喜 一	島 村 三 七雄	同 上	掛 井 五 郎
27	上 原 卓	高 田 誠 夫	伊 藤 知 己	松 村 外 次郎
28	黒 光 茂 樹	中 間 冊 夫	岩 宮 武 二	小 島 広 志

展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書 道	デ ザ イ ン
鬼塚信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭山南木・織田子青	
同 上	手 島 右 卿	
(鬼塚信之 新田藤太郎)	同 上	
鬼塚信之	小 坂 奇 石	
明石朴景	辻 本 史 邑	
会田裕宣	織田子青(漢)・出口草露(仮)	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠	
大 西 忠 夫	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
明石朴景	同 上	
平松宏明	同 上	
大西忠夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内田邦夫	同 上	
山脇洋二	同 上	
槻 尾 宗 一	同 上	
山脇洋二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰	
藤本能道	同 上	
三井安蘇夫	同 上	金 野 弘
六角穎雄	同 上	大 智 浩
六 鈴 貫 爾	同 上	早 川 良 雄

部門 回数	日本画	洋画	写真	彫刻 (46回まで彫製)
29	松岡政信	島田章三	岩宮武二	保篠田春彦
30	黒光茂樹	田中中	同同上	篠崎明雄
31	河合健二	田中忠雄	同同上	江口週
32	長谷川青澄	山口長男	{岩伊 宮藤武二 二己	一色邦彦
33	松岡政信	吉井忠	{岩秋 宮山武太 二郎	柳原義達
34	山岸純	小西保文	岩宮武二	清水兵衛
35	樋笠数慶	小萩井太郎	同同上	桜井祐一
36	坂口麻沙	吉井二	同同上	土谷武
37	下田義寛	野見山治	同同上	山本正道
38	同上	須田寿一	高田誠三	清水兵衛
39	同上	斎藤真一	同同上	清城孝一郎
40	下保昭	津高和一	{岩高 宮田武二 二三	清水良治
41	橋田二朗	小松崎邦雄	奈良原宮武	淀木津夫
42	松本哲男	国領山光	岩三木誠	橋本崎猛
43	山岸敏夫	赤穴宏	高三木三淳	山土峯武
44	平福井爽夫	桜大森朔	同同上	土峯田敏
45	岩沢重一	大谷本重	立木島義浩	小建島弘
46	穂田淵俊	大馬沼越	杵同上一	建引道
47	田路融義	三越栖右	奈良原藤一	綿古島実
48	中下工	中松樹路	齐細江田高	古恩石生
49	那波多目功	藤樹田吉	同同上	石井浦有
50	那須勝哉	藤奥谷香	同同上	小浦陸一
51	内田敏隆	佐々木津英	大石芳野	小日原大二
52	松山崎本	大山福中	同江成石	石原菅武
53	岩大竹	福中山谷	同江成石	菅米北郷
54	小宮嶋	絹山本田	同江成石	菅米北郷
55	宮能島	山島田井	同江成石	菅米北郷
56	雲丹亀	桜塗	英田沼	菅米北郷
57	西田俊		同同上	菅米北郷
58				
59				
60				
61				
62				
63				
64				

美術工芸				書道				デザイン (37回まで商業美術)			
田村耕	一	陽	二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴・田中栢翠				原弘			
山脇洋	二	陽	二	富永眉峰上				田中一			
浅野		陽		同 上				奥野英			
前田泰	次			同 上				灘本唯			
山脇洋	二			同 上				大高猛			
中村光	哉			荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・田中双鶴				福田繁			
山脇洋	二			田中栢翠・富永眉峰・新居藍州				福永井			
田村耕	一			同 上				山城隆			
同 上				荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰				粟津			
山下恒	雄			西岡楚峰上				田中友			
同 上				同 上				長啓			
浅野	陽			荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・春藤大取				亀倉雄			
中村光	哉			高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽				伊藤憲			
浅野	陽			新居藍州・西岡楚峰				サイトウ・マコト			
山下恒	雄			明石春浦・坪井正庵				佐藤晃			
三浦小平	二			桜井琴風・黒野清宇				河北秀			
松永	勲			大岡皓崖・山田伍雲・西野象山				松永			
山下恒	雄			花田峰堂・小山素洞・東地滄厓				浅葉克			
島田文	雄			浅見綿籠・森本妙子・加藤大碩				勝井三			
大山西	利			近藤撰南・東山一郎・中野北溟				五十嵐			
山下恒	雄			谷村憲齋・植村和堂・太田義久				青葉益			
島田文	雄			安原皐雲・池田桂鳳・金子卓義				松永			
中井貞	次			鈴木桐華・西本支星・金子聴松				安西水			
栗木達	介			尾崎邑鵬・井茂圭洞・大井錦亭				U. G. サト			
宮田亮	平			栗原蘆水・榎倉香邨・種谷扇舟				早川良			
松永	勲			甫田鷄川・小山やす子・石飛博光				戸田正			
竹内順	一			杭迫柏樹・藤木正次・吉田成堂				杉浦康			
栗木達	介			津金孝邦・池田桂鳳・松永暘石				秋山			
中井貞	次			田中節山・村上俄山・黒田玄夏				遠藤			
島田文	雄			宮崎葵充・赤江華城・金子卓義				中小島			
竹内順	一			星弘道・宮重小蘭・西野象山				永井			
宮田亮	平			吉川蕉仙・清水透石・作田英嗣				新島			
島田文	雄			岩井韻亭・光宗道子・大井錦亭				三木			
増村紀	一郎			伊藤天游・井茂圭洞・田岡正堂				松井			
石川充	宏			稲垣菘圃・横山煌平・船本芳雲				河			
竹内順	一			樽本樹邨・東山一郎・辻元大雲							
				真神巍堂・前島泉洲・長谷川牧風							
				鈴木春朝・山本高邨・砂本杏花							

第17回 放美展記録

会 期 平成21年 5月 2日(土)～ 6日(水・振替休日)
 会 場 あわぎんホール (県郷土文化会館)

日 本 画

- 〔審査員〕 中川 健 西野 和男 中西 芳雄
 〔運営委員〕 長谷 壽
 〔美協理事〕 岡 英彦
 〔無鑑査〕 黒田 實
 〔放美賞〕 吉田 幸
 〔四国放送テレビ開局50周年記念賞〕長尾美貴子
 〔優秀賞〕 土井 寿美 西岡 ちほ
 〔入 選〕 有井 和子 齋藤 久男 安測 弘佑 藤木 史子 水田 貴子
 富永 博子 藤村ミチヨ 森本 秀代 東 千鶴 中嶋 昌子
 川真田哲雄 植田 忠生 榎本 初子 加統 勢一 濱田 麻理
 吉本 悦子 中村真智子 板東智恵子 天羽 弘毅 森 宮子
 岩脇 恵子 前野 夏海 板東 里沙 鈴木 恵子 埴淵 照二

洋 画

- 〔審査員〕 長尾 弘久 岡田 守 西川 周三
 〔運営委員〕 榊田 務 玉田 秀子
 〔美協会長〕 佐野比呂志
 〔美協理事〕 黒崎 志郎 松川 寛
 〔無鑑査〕 青木 幸子 木下 和江 岸本 花子 大西 文代
 〔放美賞〕 田中 康子
 〔四国放送テレビ開局50周年記念賞〕米田 彩乃
 〔優秀賞〕 林 敏雄 藍谷 浩平 佐々木公子 眞野 尚枝 瀧川 勝雄
 近藤 克子 野口 暁子
 〔入 選〕 岩井 千晴 富岡 晴恵 村崎 恵子 中川 清隆 新田 芳子
 尾西 敬子 武田 洋子 小笠原秋子 為実美恵子 伊良原貞子
 山口 興一 井住香代子 堀江 幸子 土橋 正子 富浦 道子
 和田 寿子 川田 績 前川 富子 鈴木 敬子 中山 清一
 佐川千代子 前川フキ子 長井 秀夫 阿部 昌子 林 茂子
 野上 恵子 山口 明美 眞鍋たえ子 井沢 忠昭 米沢 博
 藤川佐由美 阿部 文代 井関久美子 西川 照美 宮本 典代
 Vic, Millington 東原 綺子 田中 淳子 黒島 貞子 野口 義仁
 曾我部清美 手塚 充子 答島 和年 白草 由子 丸関 朋子
 岡田 典子 坂東 弘子 若山 一恵 福田 遼子 吉村 佳己
 山田 茂昭 阿部 幸子 藤本真佐子 林 静代 合田由美子

中本真由美	中内あい子	三木美佐江	尾浦 粹子	松下 総子
島田美奈子	日野 邦恵	森本 操	高橋 都子	吉田千枝子
村川 千代	村川 栄一	大西 真央	戸井 李名	轟 愛
横井嘉世恵	中村 由春	埴渕 照二		

写 真

〔審査員〕	橋本 圭祐	井藤 光章	櫛渕 魏		
〔運営委員〕	上野 照文				
〔美協顧問〕	西條 征二				
〔美協理事〕	荒井 賢治				
〔無鑑査〕	佐々木敏幸	川真田慶治	久保 英樹	粟田ふさえ	大和 健司
	西野 倫子	石川 徹雄	森住 博	梅本 貞範	森内 昭男
	佐治 孝	平野 史子	正見 晃章		
〔放美賞〕	富岡佳代子				
〔優秀賞〕	滝島 豊美	池添 秀信	森住 孝義	竹内 好文	島 廣幸
	田中 伸廣	大津 勝治	四宮 清文	前田 輝子	宮前 稔
	多田 進	川西 明雄	笠井 孝純	湯本 千晴	水口登志夫
	村山 松子	加藤 千明			
〔入選〕	藤本 英子	滝島 豊美	三谷 美晴	谷 賢太郎(2)	吉岡 伸夫(2)
	佐藤 進	高野 作男	富沢 啓司	早渕 茂	森住 孝義
	住友 登(2)	堤 信寿(2)	富樫 晃(2)	岡村 清(2)	志摩 育美(2)
	四宮 正恵(2)	辺見 博子	上杉 大一(2)	竹内 好文	梶村 鉄次
	大塚 由香	住友 徳	斎藤 幹夫	吉田 好子	渡辺 美鈴
	阿部 隆雄	松浦 昭代	中野みどり	田中 利彦	島 廣幸
	島 昌史	棚橋 仁志(2)	庄野 里美	谷 嘉明(3)	富士 弘子(2)
	大西 雅子(2)	山口 正明	田中 伸廣	喜多 昌弘	板敷 吉二
	原田 宏	坂東 明利	笠井 房子	福原 敏雄(2)	佐竹 治(2)
	笹尾 正夫(2)	渡邊 信二	竹谷 政登	今出 弘	森 優
	森 光(2)	野藤 敏美	野藤みきよ	片山 朝生	佐藤 義雄(2)
	一宮 由子(2)	稲垣 喜修(2)	中野 久世(3)	大西 啓子(3)	大西 忠(2)
	宮本 幸治	寺尾 享美	廣野美知子	榎本 悟(2)	辻 義徳(2)
	播 博文	増谷 好子	富岡佳代子	長浦 武尚	山本 雅敏(2)
	一宮 康人(2)	松浦 孝	四宮 清文	新居 奏	山上 堯
	辻 絹子	米塚 稔(2)	郡 訓子	郡 利明(2)	土橋 成行(2)
	木村美紗子	福永 豊	野口 道子(3)	林 広司(2)	宮前 稔
	中川 健次	板東 律雄	小笠原弘明	久保 翠	村山 松子(2)
	長田 貞男	二階 博司(2)	佐倉 幹雄	加藤 千明	姫野 博司(2)
	山下 助信(2)	林 好一(2)	岡久 吉徳(2)	福井 邦博(3)	鳥井 敬一
	高見喜美男	福井 純子	宮崎 敏晴		

彫 刻

〔審査員〕 松永 勉 井下 俊作 居上 真人
 〔運営委員〕 佐藤 隆
 〔美協理事〕 鎌田 邦宏
 〔無鑑査〕 東 光司 武田亜希子
 〔放美賞〕 入村友佳子
 〔四国放送テレビ開局50周年記念賞〕 山野 実保
 〔優秀賞〕 坂本 海
 〔入選〕 佐治 孝 中川 信夫 筒井 豊 小田太一郎 山橋大二郎
 増田 有美 中 あゆみ 米津 宏一 与 吉

美術工芸

〔審査員〕 高橋 勇 犬伏 絢 森 明治
 〔運営委員〕 松下 慶一 森 賢一
 〔美協理事〕 松下 雄介
 〔無鑑査〕 田村栄一郎 加藤 伴江
 〔放美賞〕 大貝 貞雄
 〔四国放送テレビ開局50周年記念賞〕 佐々木里菜
 〔優秀賞〕 前野 亮治 宇都宮二美 南 郁代 大西 道夫 田村 純子
 松永 卓司 近藤佐起江
 〔入選〕 大貝 寿子(3) 三野みよ子 矢野 藍游 石井 春夫 石川多美子
 吉田 陽子(3) 浅山 義明 家形笑美子 佐治 孝 大貝 貞雄
 前田 道子 向 紫 阿部まきみ 坂野トシ子 曾江 司(2)
 木村 秋夫 里見 正威 杉山 武 稲井 峰子 前田 一美
 鍋島アヤ子 松本 宏 西窪 弘 竹治 敦子 大谷 聖子
 桑村 有子 戸島 裕明 木田サチコ 秦 信子 小倉カヨ子
 桜井 弘子 大塚 絹代 青木 壽美 久米 和子 鈴江 兼子
 山村 啓子 鳥井 明子 真鍋 藩弘(2) 大木 真澄(2) 櫻間 修子
 手塚 健一 高瀬 裕司 藤中 教代 宮本 真弓 小林 貴代
 小林 義治 瀬山 佳枝 横山恵美子 中西 達也 新見 道代
 阿部 巍 古谷 清美 南 郁代 丸井 明 吉田 晃子
 西 美稚子 相原 良平 原 峯子 西内 貞二(2) 石田 艶子(2)
 美馬 潤子 田村 佳代 谷内 年子 家谷三千代 藤本 芳枝
 村上 綾子 平尾 静子 鈴江 美佐 阿部真由美(2) 日高 琴美
 齋藤 美紀 四宮 千代 鈴江 正子 高濱 玲子 小川 光
 宮本 薫 保坂 美保 下内 良一 堤 公代 湯浅 芳子
 南 泰樹(2) 山川 恵子 大内 敏男 吉野 由紀 楠 正陶

原 流源	泉 良子	手功工房〔寛・美〕	村川 栄一	板東 啓子
松永 卓司	森 光	巽 安子	徳弘 祐紀	萬藤 武徳
濱村 恵子	横井嘉世恵	森 克江	小田 正子	近藤 川津
多田 雅子				

書 道

〔審査員〕	清水 桂月	浜 佳香	竹田 和代		
〔運営委員〕	永松 春苑	松本 清香			
〔美協副会長〕	新居 藍州				
〔美協理事〕	荒井 彭仙	春藤 大耿			
〔放美賞〕	平岡 幽琴				
〔四国放送テレビ開局50周年記念賞〕	瀬尾 香苗				
〔優秀賞〕	野田 満代	岸 緑香	阿部 博子	森本真由美	丸西真菜美
	武市 彩伽	林 智也			
〔入 選〕	西岡 珠香	鴻野千賀子	洲崎 忠峰	猪尾 直治	村部 幸子
	先山 晴虹	吉成タカ子	西改 怜秋	松本 宗里	富永 裕子
	荒川 佳子	松本 観翠	岡本 朱美	渡部 敦子	木元 恒子
	井内 久子	妹尾 寛子	春川 青超	松本 礼子	坂東 愛子
	桐生 美風	居和城幸代	遠藤玻都恵	岩崎 麻美	丸田 恵風
	仁木 志香	生野 久美	栗山 弘子	小西真理子	丸岡 香貞
	野田 香洋	佐藤 恵和	松村 雅子	佐滝 泉月	西上 奈甫
	森本 茂宏	小野 宙成	小谷 桂甫	上野 益泉	四宮 仁苑
	桑原 亮介	岡本 美佳	三浦 育恵	富山 康江	折野 佳子
	松本トキ子	川村 重子	高崎 福子	伊井さちよ	杉本 裕子
	藤岡都喜子	住友 春子	米倉千代子	阿部 令子	久保 又一
	須藤 華生	大地 白泉	牧野 好邨	遠藤 禎子	森本 成玉
	川端 康清	外山 絵理	高島 佑佳	吉積さつき	高松 輝翠
	塩田 龍澄	片山 保	柳本 真苑	野上 真	北野 杏奈
	野上 恭未	高田 愛	田中 恵美	中西みゆき	大本 雅人
	前野 優	小西 結貴	野口 有香	海賀 健太	酒井 萌艸
	豊原 淳子	西村 美保	秋山 知穂	尾崎 衣里	平井真智子
	森田 芳見	中山 莉保	大野由美子	中野絵理加	稼勢 瑞穂
	町田 哲子	山口 晋平	坂東 侑哉	片山 由梨	岡田 衣世
	東 絢生	梅津 郁子	大島亜里砂	金磯李可子	高内 紀菜
	岸 千代	酒井 由美	四宮 真子		

デザイン

〔審査員〕 坂野美恵子 四十宮隆志 吉本 實
 〔運営委員〕 北島 豊嗣 田中 一郎
 〔美協理事〕 坂本三千一 沢口 功
 〔放美賞〕 山田 悠子
 〔四国放送テレビ開局50周年記念賞〕松原 彩音
 〔優秀賞〕 籠屋 弘高 林 敏雄 篠崎 未来
 〔入選〕 東 早紀(2) 須藤 政代 仁義 弥生 椎葉 咲 三木由佳里
 一宮 美穂 岡田弘太郎 渡辺 眞子 左海 紗佳 田村 友紀
 久木 千明 西 利咲 堀田 成美 中本 志穂 近藤 美幸
 篠崎 未来 立石祐美子 吉村 敏嗣 漆川 万実 村田 敦子
 宮城 佳恵(2) 大西 遥 松井智奈美 津田 絢奈 濱崎由記子
 山本 千紘 坂田優里菜 坂東 花栄 近藤 真由 貴志 春佳
 笠置 明星 埴渕 照二 米田 彩乃

第17回放美展出品・入選等状況

区分		部門	日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	計
出品数			38	166	435	17	173	172	67	1,068
人数			37	130	179	14	123	153	64	700
入選	率		76.3%	49.4%	37.9%	70.6%	69.9%	65.1%	59.7%	52.5%
	放美賞		1	1	1	1	1	1	1	7
	優秀賞		2	7	17	1	7	7	3	44
	入選		26	74	147	10	113	104	36	510
	計		29	82	165	12	121	112	40	561
選外	率		23.7%	50.6%	62.1%	29.4%	30.1%	34.9%	40.3%	47.5%
	落選		9	84	270	5	52	60	27	507
無審査	審査員		3	3	3	3	3	3	3	21
	運営委員		1	2	1	1	2	2	2	11
	美協役員		1	3	2	1	1	3	2	13
	無鑑査		1	4	13	2	2	0	0	22
	計		6	12	19	7	8	8	7	67
展示数			35	94	184	19	129	120	47	628

各部記録

日 本 画 部

部 会 長 西 野 和 男

年間展望

◎第17回放美展（5月2日(土)～6日(水・振替休日) あわぎんホール)

応募点数は38点、昨年と同点数で全般的に新鮮で真剣に日本画に取り組んでいる印象を感じた。厳選な審査の中から入選29点、放美賞1点、優秀賞2点、記念賞1点を選んだ。

放美賞	「朧」	吉田 幸
優秀賞	「歎び」	土井 寿美
々	「だっこ」	西岡 ちほ
四国放送テレビ開局50周年記念賞	「暗黙の了解」	長尾美貴子

◎第64回県美術展（10月10日(土)～18日(日) あわぎんホール)

今回の審査は、院展の西田俊英先生にお願いした。

応募点数56点で、その中から特選（特別賞）1、特選1、準特選3、奨励賞3、を含む入選34点が選ばれた。西田先生からの総評は次のようなものであった。

レベルが高く、特に賞候補を絞った後からは選考が難しかった。四国放送社長賞の森崎雅子「夏の池」からは、日本画の特色の一つである「静けさ」がひしひしと伝わってくる。そこに心をひかれた。

波の上に漂う白光が微粒子となって、池全体にあまねく降り注いでいる。自然をよく観察し、理解しているのだろう。光や水草の描き方などは丁寧で、水面のゆらっとした感じがうまく出た。主役は光。小動物などは「うるさく」なりがちだが、この絵では脇役としての立場をわきまえ、光に包まれた世界が壊れていない。その辺がこの絵の良さだ。

特選の平野真里「室内」は明暗のコントラストが美しい。同じ光が主役でも「夏の池」ではやさしい光がテーマで、「室内」は突き刺す光と対照的だ。

壁、床、ドアなどは多色を用い、全体を統一したトーンでうまくまとめた。ただ、人物を描いたポスターが浮き出た感がある。もう少し色調を抑えると、さらに良かったはず。そうすれば「戸外＝未来、室内＝現実」という芸術性が強調され、今以上に神秘感や、画面の中に引きずり込まれるような感覚が生まれただろう。

入賞以外でも、若い人特有の思い切りの良さや息づかいを感じさせる作品が多かった。

意外にも徳島や四国の風土を取り上げた作品が少なかったように思う。表現力がある人が多いのだから既成概念にとらわれず、勇気を持って、もっと個性的に描いてみよう。

特選	(四国放送社長賞)「夏の池」	森崎 雅子
特選	「室内」	平野 真里
準特選	「休日」	梶浦 千瑞
〃	「楽園」	石原 千鶴
〃	「まほちゃん」	吉田 幸
奨励賞	「漁具」	仁木 正子
〃	「花の譜」	柳田 一子
〃	「輝く」	坂 容子

会員消息

(県展関係は除く。月別)

- 1月 Heart Art in Tokyo 2009 第12回エイズチャリティー美術展「彩に咲く」P20号
 優秀芸術大賞受賞(東京都国立新美術館) 長尾弘子
 第44回日本墨彩画院展(高松市美術館) 長谷壽・天羽弘毅
- 3月 第1回とくしま芸術文化賞受賞 橋本正弘
- 4月 第44回日春展(東京松屋銀座) 橋本正弘・岡英彦・土方るみ子
 土井洋子
 第49回日本南画院展(東京都国立新美術館、京都市立美術館、大阪市立美術館)
 長谷壽・藤井瑞雲
- 5月 第48回阿南市美術展(阿南市文化会館) 長谷壽・天羽弘毅
 平成21年溪生社水墨画展(あわぎんホール) 江上豊溪
- 6月 第41回珀雲社日本画展(阿波銀プラザ) 長谷壽・藤井瑞雲・吉田満子
 白河邦子
 国際芸術 KAIKO展 in 横浜「十三夜の頃」F10号
 (神奈川県民ホール ギャラリー5F) 長尾弘子
- 7月 EPMO Art ~芸術の彩展「秋日」P25号(奈良県文化会館)
 長尾弘子
- 9月 第41回石井美術の会作品展(あわぎんホール) 中川健
- 10月 第41回日展(東京国立新美術館) 橋本正弘・土方るみ子
 Heart Art in ATHENS 日本~ギリシャ巡回美術展「春の日」M20号
 優秀芸術大賞・特別審査員賞ダブル受賞(メリーナ美術館(ギリシャ))
 長尾弘子

- 第1回サンライフ北島「やさしい日本画」受講生作品展
 (ギャラリーカフェ世界一小さな美術館) 中川健
- 平成21年美波町由岐地区文化祭展(由岐ポッポマリン) 長谷壽
- 第67回有秋会展(大阪市立美術館) 長谷壽・藤井瑞雲
- 11月 第38回阿南市文化祭美術展(阿南市文化会館) 長谷壽・天羽弘毅
- 平成21年阿南市福井町文化祭作品展(福井町総合センター)
 長谷壽
- 平成21年美波町日和佐地区文化祭(日和佐公民館) 白河邦子
- 溪生社水墨画展(阿波銀プラザ) 江上豊溪
- 千福寺(阿南市見能林町)天井絵 天羽弘毅
- 第24回石井町文化祭展(石井町中央公民館) 中川健
- 2009読売新聞大阪本社名士名流作品展(近鉄百貨店阿倍野店)
 土方るみ子
- 12月 Heart Art Communication 展「白玉椿」P20号(東京都美術館)
 長尾弘子
- 第38回歳末チャリティー作品即売展(そごう徳島店)
 長尾弘子・岡英彦・土方るみ子

洋 画 部

部 会 長 梶 田 務

年間展望

◎第64回県美術展 (10月10日(土)～10月18日(日) あわぎんホール)

応募作品の総数は357点で、前回より13点の増、出品者数も253人と8人の増だった。入選点数は130点、入選率36.4%という厳選となった。30%台の厳しい入選率を緩和するため、応募作品の大きさを、上限を60号、S型は30号と制限し、2年続いて入選率を40%台に乗せたが、去年は37%。本年はより厳しい36%という結果となった。

審査員には、日本芸術院会員、日展常務理事の塗師祥一郎先生をお迎えした。午前9時30分から午後3時過ぎまで丁寧に審査に当たっていただいた。

なお、入賞作品数は、特選3点(内1点は県美術家協会会長賞)、準特選6点、奨励賞5点の計14点である。

審査評の一部を紹介する。

「類型的な作品が少なく、バラエティーに富んでいた。自然と相対し、ひたむきに努力していると感じられ、好感が持てる。阿波踊りや人形浄瑠璃など、地域性豊かな作品が多いのも興味深く感じた。

審査においては、絵の内容の豊かさを重視した。題材の選び方やそれをどういう風を受け止めて絵にしたのかが伝わってくる作を賞に選んだ。

県美術家協会会長賞の竹内れい「白いライオン」は、現代社会をピエロに置き換えた。シュールな表現が目を引く。顔のないライオンや、背景に浮かび上がる原爆雲、入り組んだ迷路などのモチーフから、描き手が感じている、混沌とした現代社会への不安が伝わってくるようだ。構成もよく、技術面でも申し分ない。

特選の藤井香世「刻のはざま」は、うずくまる女性を中心に、トランプやユリの花、ガラスケースに入ったぬいぐるみ、カレンダーなどを配置。物語性が感じられる。デッサンに力があり、大胆で独得な絵の具のつけ方、工夫されていて面白い。

特選の香西咲紀「瀬戸の廃屋」は、風景をひたむきに写生しており、哀愁を感じさせる。廃屋を描いた作品はよく見るが構図を取るのが難しい。しっかりした建物が朽ちていく様子を、土の色である茶色を基調に、丹念に描いていて、よくまとまっている。

選外には、いい題材を選びながらも技術的に未熟で説得力を持たせられなかった作品もあった。「この絵を描きたい」と意欲に燃えたと、絵に活気が出て、モチーフを見る目にも新たな発見が生まれる。自分の描きたいものを大切にしながら努力を重ねてほし

い。』

今回も、作品の大きさを上限60号と定めたことで入選点数を130点前後とした。(実数130点) その結果、わずかながら入選者数が増加し、好感をもって迎えられているようである。

これからも関係者の意見をよく聞き参考にしながら、審査員の選任や搬入、審査の流れ、入落作品の確認と保管、展示などを更に検討して第65回展に臨みたい。

◎第17回放美展 (5月2日(土)～5月6日(水・振替休日) あわぎんホール)

洋画部門の応募者は130人、点数は166点で、前回に比して35点の減。入選は82点で入選率49%という厳選となった。壁面の都合で展示されなかった作品も遜色のない好作品で不運としか言いようがない。更に精進されて応募されるようお願いしたい。

受賞作品の審査評の一部を紹介する。

「放美賞の田中康子さん「和牛の母子」は、画面いっぱいのどっしりした母牛と、その傍らに少し不安げにたたずむ子牛。対象への愛情にあふれ色彩的にもその場の雰囲気をよく表現している。

優秀賞の近藤克子さん「男木島の路地」は、ひなびた漁村のたたずまいと人々の生きざまを表現。藍谷浩平さん「焼却場と籠Ⅰ」は、思い切った色でダイナミックに表現しつつ情感もある。野口暁子さん「河口の風景」は、秋の一刻の川面の光と重厚な海色がよいコントラストで描かれた。真野尚枝さん「バリの人形」は、多彩な色調が楽しくエキゾチックな雰囲気を表現。瀧川勝雄さん「生命の誘い」は、木版画のさまざまな技法が効果的に使われ、シンプルな構成で成功した。林敏雄さん「私の散歩風景」は、実写とイメージをうまく加味し情感ある風景に。杉木立の暗い緑と新緑の対比を細やかな筆致でよくとらえている。四国放送開局五十周年記念賞の米田彩乃さん「彩緑光」は、高校生らしいイメージを展開し感動させられる。」

◎第23回洋画部会員展 (7月2日(木)～7月5日(日) あわぎんホール)

今回の出品総数は91点、各作品とも力作ぞろいで見ごたえのある展覧会になった。会員相互の研究・交流の場として、更なる充実を図り、県民の方々から愛好される展覧会になるよう願ってやまない。会員の皆様のご協力を切にお願いしたい。

なお、会期中の7月4日には、会員相互の親睦を深める懇親会をホテルグランドパレス徳島で開催した。当日、画業80年におよぶ佐野比呂志会長の制作の基本姿勢や絵にまつわるお話をきくとともに運営委員の異動や会計報告、今後の会員展の在り方などについて意見を交換し、終始なごやかなひとときを過ごした。

役員の異動については、事務責任者に長尾弘久さん、10余年の長きにわたってお世話

いただいた会計の佐藤敬子さんの後任に福良哲子さん、佐藤敬子さんには引き続き、監事として会計監査にあたって頂くことをお願いすることになった。

末筆になったが、終始、お世話を頂いた運営委員の方々に対し、会員一同心から敬意を表します。

会員消息

(県展・放美展を除く。五十音順。2010.1.10 現在)

- 藍谷 浩平 第69回美術文化展（東京都美術館）、関西美術文化展（大阪市立美術館）、第27回美術文化四国支部徳島展（徳島県立近代美術館）
- 青木 幸子 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、第32回八紅展（阿波銀プラザ）、第24回国民文化祭美術展（静岡県立美術館）、第24回八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 阿部 昌子 第40回土曜展（徳島市シビックセンター）、第23回洋画部会員展・第65回青美展（あわぎんホール）
- 東 紀美子 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）つくしの会・波の会合同絵画展・第38回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）
- 天田 弘之 第59回モダンアート展（東京都美術館）、同京都展（京都市美術館）、第42回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第23回洋画部会員展・第41回石井美術の会展（あわぎんホール）、Art Maison de Japan（マドリード国際会議場）
- 井沢 忠昭 第27回青彩美術展（徳島市シビックセンター）、第38回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）
- 伊勢 浩章 徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）、第33回15人展（ヨンデンプラザ徳島）、第23回洋画部会員展・第27回徳島平和美術展（あわぎんホール）
- 乾 繁春 第69回美術文化展：会員出品（東京都美術館）、関西美術文化展（大阪市立美術館）、第27回美術文化四国支部徳島展（県近代美術館ギャラリー）、世代美術展・NHK高松文化センター絵画美学展：賛助出品（高松市立美術館）、NHK徳島文化センター第2回絵画美学展：賛助出品（阿波銀プラザ）
- 宇高 桂子 第63回女流画家協会展（東京都美術館）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、第77回独立美術展（国立新美術館）
- 越久 高照 第65回青美展・第23回洋画部会員展・第37回徳島市芸術祭美術展・第27回徳島平和美術展（あわぎんホール）、第24回藍美展（藍住町福祉センター）、第24回国民文化祭美術展（静岡県立美術館）、さかいで Art グランプリ

2009（坂出市美術館）

- 大津 憲文 第8回合同絵画展・第38回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 大西 文代 第27回青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 大西 道夫 第59回モダンアート展（東京都美術館・京都市立美術館）、〈モダンアート明日への展望2009〉第42回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、小松島市美術展（小松島市中央公民館）、第29回道草展（喫茶やまなみ）
- 大西利津子 第23回洋画部会員展・第37回徳島市芸術祭美術展・第8回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）、大西利津子作品展（グレイス）、春季二紀展（阿波銀プラザ）、第24回徳島二紀展（県立近代美術館）
- 大野 文雄 第16回徳島市加茂文化祭（徳島市加茂コミュニティーセンター）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 岡 多美子 第100回記念徳島県女流美術家協会展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、2009 Heart Art Communication 展（東京都美術館）他
- 小笠原秋子 第37回徳島市芸術祭美術展・第23回洋画部会員展・第8回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）、春風展（三好市教育委員会）、三好市文化祭（ヨンデンプラザ三好）、三野町文化祭（三野町体育館）
- 岡田 守 第68回世代美術展（徳島市シビックセンター）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 岡田 君代 第23回洋画部会員展・第27回徳島平和美術展・青年美術展・（あわぎんホール）、第33回15人展（ヨンデンプラザ徳島）
- 加賀谷愛美 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 加川由紀子 徳島アート21第7回展（あわぎんホール）、中央公民館洋画教室作品展2009（ヨンデンプラザ徳島）
- 賀木 道子 第68回世代美術展（徳島市シビックセンター）、第37回徳島市芸術祭美術展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 片山 富市 第75回旺玄会展：会員出品（東京都美術館）、第13回旺玄会東四国支部展（阿波銀プラザ）
- 片山美代子 第65回現展（国立新美術館）、現展関西展（大阪市立美術館）、現展関西支部展（京都府立文化芸術会館）、絵画美学展（阿波銀プラザ）
- 河田 安市 第85回白日照：会員出品（国立新美術館）、同巡回展（大阪、名古屋、九州）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 河野 公子 第69回美術文化展（東京都美術館）、美術文化四国支部展（徳島県立近代

美術館)、第23回洋画部会員展・第65回青美展・第27回徳島平和美術展
(あわぎんホール)、第33回15人展(ヨンデンプラザ徳島)

- 川原 禮子 三好市民文化まつり(ヨンデンプラザ池田)、徳島アート21第7回展(阿波銀プラザ)
- 河本多恵子 第37回徳島市芸術祭美術展:招待出品、第23回洋画部会員展、第8回徳島新聞カルチャー展(あわぎんホール)、第32回八紅展(阿波銀プラザ)、国府文化祭(国府町コミュニティーセンター)
- 岸本 花子 第37回徳島市芸術祭美術展・第23回洋画部会員展(あわぎんホール)、第32回八紅展(阿波銀プラザ)、第24回八万文化祭(八万コミュニティーセンター)
- 木谷 弘 第69回美術文化展(東京都美術館)、第69回関西美術文化展(大阪市立美術館)、美術文化四国支部展(徳島県近代美術館)第68回世代美術展(徳島市シビックセンター)、木谷弘・長尾弘久二人展(阿波銀プラザ)、悠美展(ヨンデンプラザ徳島)
- 黒崎 志郎 第62回示現会展:会員出品(国立新美術館)、同巡回徳島展・第23回洋画部会員展(あわぎんホール)、第97回日本水彩展:審査員出品(東京都美術館)、第41回日展(国立新美術館)、第40回示現会展徳島支部展・エキスポジション75展(阿波銀プラザ)
- 答島 久子 第48回阿南市美術展・つくしの会・波の会合同展・第38回阿南市文化祭美術展(阿南市文化会館)、第2回羽ノ浦公民館フェスタ(羽ノ浦公民館)
- 後藤田仁一 第69回美術文化展:会員出品(東京都美術館)、第69回関西美術文化展:会員出品(大阪市立美術館)、第68回世代美術展(徳島市シビックセンター)、悠美展(ヨンデンプラザ徳島)
- 後藤ユリ子 第69回美術文化展(東京都美術館)、美術文化徳島支部展(阿波銀プラザ)、第23回洋画部会員展(あわぎんホール)
- 近藤 克子 第75回東光展・第97回日本水彩展・第97回一水会展(東京都美術館)、第31回東光会展徳島支部展・第23回洋画部会員展・ふるさとを描き遺す会展(あわぎんホール)、第31回鴨島美術グループ展(吉野川文化研修センター)
- 斉藤 靖子 第59回日本板画院展:会員出品、同山陰巡回展(倉吉市)、徳島県女流美術家協会展・ふるさとを描き遺す会展(あわぎんホール)、悠美展(ヨンデンプラザ徳島)、二人展(東かがわ市)
- 嵯峨 潤三 第28回すどり洋画展(西宮市立北口ギャラリー)、第23回洋画部会員展(あわぎんホール)、嵯峨潤三抽象画小品展(ギャラリーカフェ・ブリッサ)
- 佐藤 敬子 第65回青美展・第23回洋画部会員展(あわぎんホール)、第2回徳島絵画

美学展（阿波銀プラザ）

- 佐野比呂志 第37回徳島市芸術祭美術展：審査員出品・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、第68回世代美術展（徳島シビックセンター）、徳島アート21第7回展：賛助出品（阿波銀プラザ）、第46回関西独立展：無鑑査出品（大阪
市立美術館）
- 四宮 久子 第63回二紀展（国立新美術館）、神戸二紀展（神戸、原田森ギャラリー）、
徳島二紀展（阿波銀プラザ）
- 島上 二郎 第75回東光展：会員出品（東京都美術館）、東光会徳島支部展・第23回洋
画部会員展（あわぎんホール）
- 島田美奈子 第37回徳島市芸術祭美術展・第8回徳島新聞カルチャー展・第23回洋画部
会員展（あわぎんホール）、32回八紅展（阿波銀プラザ）、第24回八万文化
祭（八万コミュニティーセンター）
- 志摩 政照 吉野川市総合美術展・第31回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修セン
ター）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 清水 亟悞 第41回清水亟悞個展（徳島そごう5階美術画廊）、カンヌグランプリ金賞
（フランス世界芸術文化協会）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 下時治郎秀臣 第85回白日展（国立新美術館）、巡回展（愛知）（鹿児島）（大阪）、選抜展
（近鉄美術画廊）、五星会展（福岡三越）、第23回洋画部会員展（あわぎん
ホール）、洋画秀作展（あわぎんホール）（梅田画廊）、英英紅緑展（日本
橋三越）
- 杉本 祥子 第27回徳島平和美術展（あわぎんホール）、第33回15人展（ヨンデンプラ
ザ）
- 鈴木 敬子 第85回白日展（国立新美術館）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、
吉野川市総合美術展・第31回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修セン
ター）
- 住友 義彦 宝田町公民館祭（宝田公民館）
- 曾我部秀子 第37回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第23回洋画部会員展（あわぎんホ
ール）、日美絵画展（国立新美術館）、第24回八万文化祭（八万コミュニテ
ィセンター）
- 田岡 荘二 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 武田 洋子 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、三好郡・市教職員春風展（三好
郡・市教育会）、東祖谷文化まつり（歴史資料館）、阿波・吉野川二市美術
交流展（市場ふれあいセンター）、阿波市文化協会文化祭（市場中学校）
- 田中シゲミ 第37回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第8回徳島新聞カルチャー展・第

- 23回洋画部会員展（あわぎんホール）、大麻町文化祭（鳴門市大麻町公民館）
- 田中 康子 第32回八紅展（阿波銀プラザ）、国府文化祭（国府町コミュニティーセンター）
 - 田淵 浜子 第75回東光展（東京都美術館）、東光会徳島支部展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
 - 玉田 秀子 第37回徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、徳島アート21第7回展・第32回八紅展（阿波銀プラザ）、第8回合同絵画展（阿南市文化会館）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
 - 為実美恵子 第3回三好市文化まつり池田大会（ヨンデンプラザ池田）、第22回池田文化まつり
 - 露口 敏幸 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、第68回世代美術展（徳島市シビックセンター）
 - 長尾 弘久 徳島アート21第7回展・徳島版画展第7回展・木谷弘・長尾弘久二人展（阿波銀プラザ）・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
 - 長野 満子 第41回画展ふるさと・第38回絵で見る徳島展（あわぎんホール）、第3回徳島城博物館ボランティア友の会展（徳島城博物館内）
 - 中辻奈美枝 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）、阿南市文化祭美術展、つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）、大阪マサゴ画廊グループ展（マサゴ画廊）
 - 中村 恵一 第23回日洋展（国立新美術館）
 - 南城ミツ子 第75回東光展：会員出品（東京都美術館）、東光会徳島支部展・第37回徳島市芸術祭美術展：招待出品・南城ミツ子画展（あわぎんホール）
 - 仁木 幸子 第8回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）、第24回八万文化祭（八万コミュニティーセンター）
 - 西川 敬子 徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
 - 西川 周三 徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
 - 西崎 志帆 平和美術会展（京都市美術館）、第27回徳島平和美術展（あわぎんホール）
 - 二條 均 洋画展（ドコモ山城）、第27回徳島平和美術展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、板野美術クラブ展（板野町文化の館）、油彩展（ギャラリーグレイス）
 - 野口 暁子 第37回徳島市芸術祭美術展・第23回洋画部会員展・第8回徳島新聞カルチ

ヤー展（あわぎんホール）、第32回八紅展（阿波銀プラザ）

- 野上 恵子 第37回徳島市芸術祭美術展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、第32回八紅展（阿波銀プラザ）、第24回八万文化祭（八万公民館）
- 野村 雅子 徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）、波の会・つくしの会合同絵画展（阿南市文化会館）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 林 康太郎 美術文化徳島グループ展（阿波銀プラザ）、第69回美術文化展（東京都美術館）、第69回美術文化関西展（大阪市立美術館）、第27回美術文化四国支部展（徳島県立近代美術館）
- 林 静代 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 林 信夫 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 日野 邦恵 第75回東光展（東京都美術館）、東光会徳島支部展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 平田スミコ 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 平松 智子 第31回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、第23回洋画部会員展・第41回石井美術の会作品展（あわぎんホール）
- 福富 正二 キャンパスの午後・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 福良 哲子 第37回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第23回洋画部会員展・第8回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）、第32回八紅展（阿波銀プラザ）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）
- 藤井 香世 第69回美術文化展（東京都美術館）、第69回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（徳島県立近代美術館）
- 藤崎 恭子 徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）
- 藤丸 家栄 徳島アート21第7回展（阿波銀プラザ）、第3回くろねこ展（ギャラリー黒猫松山）
- 堀江 幸子 第23回洋画部会員展・第65回青美展（あわぎんホール）、吉野川市・阿波市二市交流展・鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、鴨島文化サロン展・個展（本郷木ギャラリー）、二人展（文化研修センター）
- 梶田 務 第31回東光会徳島支部展・第23回洋画部会員展・第37回徳島市芸術祭美術展：審査員出品（あわぎんホール）、パルの会展：賛助出品（ヨンデンエネルギープラザ阿南）
- 松川 寛 第42回モダンアート徳島支部展・第22回アトリエM展（阿波銀プラザ）、第59回モダンアート協会展（東京都美術館）、第28回関西モダンアート展（兵庫県立美術館）、同京都展（京都市立美術館）第41回石井美術の会作品展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）

- 真野 孝彦 吉野川市・阿波市絵画交流展・第31回鴨島美術クラブ展（吉野川市文化研修センター）、阿波市油彩展（阿波町図書館）、第65回青美展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 馬淵 博子 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 三沢 尚子 第21回燎四人展・尚アート水彩展（阿波銀プラザ）、関西水彩画会展（大阪市立美術館）、それいゆ水彩画展（NHK放送局ロビー）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 三谷多美子 第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 三谷ミヤ子 第37回徳島市芸術祭美術展：招待出品・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、東光会第3回小品展（東京都美術館）、第32回八紅展（阿波銀プラザ）、東富田・八万文化祭（八万コミュニティーセンター）、東富田絵画展：賛助出品（ふれあい健康館・アンデルセンギャラリー）
- 峯 幸子 峯幸子絵画作品展・私の愛したスケッチ展（自治研修センター）、アトリエ・マイン展・第37回む・アート展（阿波銀プラザ）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 三好 初子 第75回東光展（東京都美術館）、第31回東光会徳島支部展・第23回洋画部会員展・第37回徳島市芸術祭美術展（あわぎんホール）、絵と阿波郷土史二人展（徳島市シビックセンター）、第24回藍美展（藍住町福祉センター）
- 山口 明美 第32回八紅展（阿波銀プラザ）、第23回洋画部会員展・第8回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）
- 山口美千代 第65回青美展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、三好市文化祭（ヨンデンプラザ池田）
- 山田 智千 第40回土曜展（徳島市シビックセンター）、第8回徳島新聞カルチャー展・第65回青美展・第41回石井美術の会作品展（あわぎんホール）
- 結城 栄子 第37回む・アート展（阿波銀プラザ）、第23回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 米沢 博 第37回徳島市芸術祭美術展、第8回徳島新聞カルチャー展（あわぎんホール）、第22回全国健康福祉祭美術展（北海道総合センター）
- 和田 寿子 第37回徳島市芸術祭美術展・第23回洋画部会員展（あわぎんホール）、第32回八紅展（阿波銀プラザ）

写 真 部

部 会 長 櫛 淵 魏

年間展望

◎第64回県美術展（10月10日(土)～18日(日) あわぎんホール）

応募総数は767点。出品者数は262人であった。審査員には昨年と同じく日本写真家協会（JPS）会長、田沼武能先生をお迎えした。審査の結果、特選4点、準特選9点、奨励賞9点、入選128点が選出された。田沼先生から審査終了後、「全体としては平均点以上の作品が多かった。撮影者の感動が表れている写真を残し、さらに、その感動がより強く見る人にも伝わってくる作品を入賞とした。何となく撮った写真は見る人に何となくしか伝わらない。つまり、何を撮りたいかをはっきりさせないとあいまいな写真になってしまう。」との総評を、また、入賞作品個々についても懇切な講評をいただいた。

特 選	「秋日和」	阿部 啓三 (特別賞)
ゝ	「少年」	林 広司
ゝ	「楽園」	志摩 育美
ゝ	「未来への熱き心」	矢部 弘子
準特選	吉村 敏嗣・姫野 博司・川西 明雄・福原 敏雄 多田 進・泉 清美・富加見美枝・瀧花 性善 内藤 晃	

◎第17回放美展（5月2日(土)～6日(水・振替休日) あわぎんホール）

応募総数は435点で昨年より少々の減であった。この中から、放美賞1点、優秀賞17点、入選147点が選出された。審査員は橋本圭祐、井藤光章、櫛淵魏が担当した。

放美賞	「生きる」富岡佳代子	
優秀賞	滝島 豊美・池添 秀信・森住 孝義・竹内 好文 島 廣幸・田中 伸廣・大津 勝治・四宮 清文 前田 輝子・宮前 稔・多田 進・川西 明雄 笠井 孝純・湯本 千晴・水口登志夫・村山 松子 加藤 千明	

◎**県美協写真部撮影会**（6月28日(日)）

今回は堀割りと歴史に育まれた滋賀県、近江八幡市への撮影旅行を計画した。参加人員は31名であった。阿南6時出発、沖洲マリナーミナル経由、徳島駅6時50分発、近江八幡着11時。町並み、堀割りの情緒をたっぷり撮影後、15時出発、19時徳島着で無事撮影会を終了した。会の開催には次の各委員にお世話願った。

三木 晴夫・井上 憲治・井藤 光章・古井 謙吉・林 敏彦

会員の訃報

12月18日、県展招待作家の中野建吉氏が逝去されました。氏は生まれ育った木頭を愛し、生涯木頭の人々や風物を撮り続け、その作品集「ぬくいぜんか」は高い評価を得ました。享年61才。心からご冥福をお祈り申し上げます。

各分野での会員の活動状況 ～中央展・個展・団体展など～

◎**第65回朝日写真展**（5月1日(金)～7日(木) 富士フォトサロン大阪）

入 選：関口つとむ

◎**第94回二科展写真部門**（9月1日(火)～14日(月) 東京国立新美術館）

会 員 出 品：荒井 賢治

会 友 出 品：森住 博・大和 健司・西條 征二

入 賞：西野 倫子（ニコン賞）・平野史子（フォトコン賞）

入 選：佐々木敏幸・四宮 正恵・志摩 育美・森内 昭男・梅本 貞範
播 博文

◎**第56回阿波踊り写真コンクール**（9月19日(土)～29日(火) 阿波おどり会館）

特 選：森内 昭男

入 選：阿部 啓三

◎**第16回朝日四国写真展**（11月8日(日) 高知市にて審査）

徳島県知事賞：阿部 啓三

特 選：宮本 幸治・林 敏彦

奨 励 賞：船越 正文・関口つとむ

入 選：野藤 敏美・西條 征二・久保 英樹・大津 勝治・森 賢一
井上 憲治

◎第70回国際写真サロン（2010年4月7日(水)より全国）

入 選：橋本 圭祐

◎第43回日本光画会「光」展（1月14日(水)～18日(日) 徳島市シビックセンター）

会 員 出 品：佐藤 義雄

◎「荒井賢治と歩む写真の世界」88人の写真展（1月22日(木)～26日(月) 阿波銀プラザ）

出 品 者：荒井 賢治・梅本 貞範・佐々木敏幸・四宮 正恵・志摩 育美
土橋 成行・西野 倫子・播 博文・板東 律雄・平野 史子
森内 昭男・森住 博・柳川 信子・大和 健司

◎第24回全日本写真連盟県本部写真展（2月6日(金)～8日(日) 徳島市シビックセンター）

県本部委員長：林 敏彦

出 品 者：吉村 敏嗣・阿部 啓三・井藤 光章・井上 憲治・上野 照文
大津 勝治・櫛淵 魏・川真田慶治・久我 千鶴・久保 英樹
佐治 孝・佐藤 義雄・伊達 照子・根ヶ山 治・根ヶ山美江
野藤 敏美・野藤みきよ・橋本 圭祐・林 敏彦・姫田 慎治
藤川 光昭・古井 謙吉・三木 晴夫・宮本 幸治・森 光
森住 博

◎第40回ナルトぴんぼけクラブ写真展（2月13日(金)～15日(日) 鳴門市立図書館）

会 長：賀川 泰弘

出 品 者：木田 英之・賀川 泰弘・小川 勝・元木 強・武地 雅

◎木田英之写真展「ザ・ムーン」（2月4日(水)～22日(日) 板野町ギャラリーブリッサ）

◎第26回サンカ会写真作品展（4月11日(土)～13日(月) 徳島市シビックセンター）

会 長：森内 昭男

出 品 者：森内 昭男・田中 伸廣

◎第9回大貝久義個展「俳句歳時記季節のきらめき」

（4月12日(日)～30日(木) 徳島市シビックセンター）

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」

（4月15日(水)～20日(月) 徳島市シビックセンター）

会 長：大貝 久義

◎第10回ニコールクラブ徳島支部写真展（4月24日(金)～26日(日) 徳島市シビックセンター）

支 部 長：櫛淵 魏

出品者：阿部 啓三・井藤 光章・川真田慶治・櫛淵 魏・西條 征二
佐治 孝・佐藤 義雄・中川 定典・古井 謙吉・堀口 幸男
増田 寿・三木 晴夫・三木 理司・森 賢一

◎第14回写団「阿波っ子」写真展（5月22日(金)～24日(日) 徳島市シビックセンター）

会長：川口 進

◎第32回写真同人「炎」作品展（6月5日(金)～7日(日) 徳島市シビックセンター）

代表：西條 征二

出品者：大和 健司・阿部 啓三・荒井 賢治・井藤 光章・井上 憲治
川真田慶治・櫛淵 魏・佐藤 義雄・西條 征二・佐治 孝
田村 泰弘・伊達 照子・土橋 成行・中川 定典・野口 佳一
林 敏彦・姫田 慎治・古井 謙吉・堀口 幸男・森 賢一

◎中野建吉写真展「ぬくいぜんか」（6月15日(月)～21日(日) 東京品川区民ギャラリー）

◎第9回「UNITED」写真展（6月19日(金)～21日(日) 阿波銀プラザ）

代表：上野 照文

出品者：上野 照文・橋本 圭祐・林 敏彦・井上 憲治・多川 静守
野口 佳一・堀口 幸男・増田 寿

◎英藍アルテ写真クラブ展（6月26日(金)～28日(日) 阿波銀プラザ）

出品者：上野 照文・藤川 光昭

◎第15回徳島ライカクラブ展（7月10日(金)～12日(日) ヨンデンプラザ徳島）

出品者：後藤 能大・山田 勝二・森 光

◎上野照文阿波踊り写真展「阿波の煌めき」（8月12日(木)～16日(日) 阿波銀プラザ）

◎第23回徳島花を写す会写真展（8月21日(金)～23日(日) 徳島市シビックセンター）

代表：佐藤 義雄

出品者：久保 英樹・佐藤 義雄・吉村 敏嗣

◎第49回写楽会写真展（9月11日(金)～12日(土) 徳島市シビックセンター）

会長：櫛淵 魏

出品者：櫛淵 魏・上野 照文・川真田慶治・櫛淵 紳哉・関口つとむ
中川 定典・古井 謙吉

◎第9回写友「吉野川」写真展（9月26日(土)～28日(月) 徳島市シビックセンター）

会長：岩崎 英昭

出 品 者：岩崎 英昭・矢部 弘子

◎第10回大貝久義個展「俳句歳時記季節のきらめき」

(10月14日(水)～11月2日(月) 徳島市シビックセンター)

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」

(10月28日(水)～11月2日(月) 徳島市シビックセンター)

会 長：大貝 久義

出 品 者：大貝 久義・安丸 弘二・森 光

◎第4回写真同人「光」写真展 (11月2日(月)～6日(金) よんでんエネルギープラザ阿南)

会 長：林 敏彦

出 品 者：木田 英之・田村 泰弘・伊達 照子・林 敏彦・三木 晴夫

◎第4回日本風景写真協会「徳島支部」展

(11月24日(火)～29日(日) NHK徳島放送局ロビー)

支 部 長：岩崎 英昭

◎第39回日本リアリズム写真集団徳島支部展「四国三郎とその流域part-I」

(11月27日(金)～30日(月) ヨンデンプラザ徳島)

支 部 長：木田 英之

彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

年間展望

◎第64回県美術展（平成21年10月10日(土)～18日(日) あわぎんホール）

今年は審査員として二科会会員で女子美術大学教授の津田裕子先生にお願いした。今年の彫刻部門の出品総数は26点であり、そのうち入賞・入選作品には16点が選ばれた。総数では前回と比較して3点増えている。微増であるが彫刻に対して関心を持ち、制作してみようかと思う人や彫刻のできる環境が少ないのが現実である。何とか立体造形という幅広い考えでいろいろな作品を出品してもらいたいと思っている。しかし、出品数は少ない中で入賞・入選作品には感性豊かな力作品や今までにないような表現で出品した作品などが目立ったことは彫刻の存在をアピールできたのではないかと思う。

さて、今回の審査は津田先生が丁寧に何回も細かく時間をかけて見られた。審査後には質問も受け、出品者に対して納得のゆく説明をされていた。特に若い高校生には今後どのように彫刻に取り組めば良いのか指導されるほどの力の入れよう、熱心に話をされた。

次に今回の審査評としては「幅広い年齢層の作者から木、石こう、石、ガラスなどさまざまな素材を用いた作品が集まった。各自の制作にかける思いがこもった作品ばかりで評価をつけがたかった。作者がどのくらい自分の世界観を伝える努力をしているのか、素材の持ち味を駆使して表現できているか、という点を中心に審査を行った」と話された。

「特選」（徳島県議会議長賞）に選ばれた高丸公相さんの“惑う星”には、「時代が求める感性に合った作品。土と樹脂という、異なる特性を持った素材を見事にマッチさせ、無機質の中に生命の息吹を感じさせる作品に仕上げた。樹脂部分の量感と亀裂、空洞に入れた土のバランスから、作者の表現したい世界がしっかりと伝わってきた」との評価をいただいた。高丸さんはこれまで個展を何回も開いており、県展では過去に受賞経験もある作家だ。樹脂という新しい素材を中心にした作品を発表し続けている。それも素材の持つ透明性を利用した珍しい表現方法を行ってきた。見る物に不思議な空間を提案するこれまでにない存在である。今後の活躍が期待できる彫刻家だ。

「準特選」の木村大志さんの作品“ウェザーニュース”については「木の風合いがうまく生きている。彩色も効果的」との評価であった。木村さんは毎年、木彫の作品を出

品している。特に動物などのやや荒削りなところが魅力的で、その上淡く彩色された木質が見る者を引きつけるようなところがある。さらに置き方に独特の味があって個性的な木彫作品として仕上がっている。この分野で頑張って続けてほしい作家である。

次に、同じく「準特選」に選ばれた山橋大二郎さんの“少年”は「作品の持つ静けさが見る者の心に染み入るような印象を受けた」と述べられた。山橋さんは人体彫刻をずっと追求されており、この数年の間に力をつけられ安定した制作ぶりを示されている。次第と見る側に伝わるような表現ができるようになってきたのではないだろうか。これからも頑張ってほしい作家である。

それから全体の評として「多様な素材、多様な価値観が存在する時代だ。賞にこだわらず、自分の表現したいものを自由に、思い切って作ってほしい。彫刻は決して専門的に学んだ人のための芸術ではない。紙や布など身近な素材からも作品はできる。多くの人に彫刻の魅力を知って、好きになってもらいたい」と話された。

その他の入賞作品は「奨励賞」として東光司さんの“刻まれた風景（空間）”と那須豊之さんの“Wood Works ～ bikeⅡ～”が選ばれた。東さんは石彫の経験が豊富な作家として活動しており、毎年工夫した作品を出品している。実力はあるので次を期待したい。那須さんは今回が初めての出品で初受賞である。木を扱っているが手慣れた制作技術と仕上がりの良さには素晴らしいものがあるように思う。そして今回見学に来る子供たちに対して作品に乗っても良いという知らせを作るなど話題性のある提示をしても良かったことは彫刻の今までになかった1つの方向を示していただいた気がした。

◎第17回放美展（平成21年5月2日(出)～6日（水・振替休日） あわぎんホール）

彫刻部門の出品総数は17点（14人）であった。審査においては立体としての大切なポイントである「動勢」や「量感」についてどのように理解し表現することができているかを見た。また石や木、プラスチック、石こう、金属などの素材の特性をどううまく生かしているかという点も重要視して進めた。

「放美賞」に選ばれた入村友佳子さんの“マキ”は細部にこだわらず、大きなフォルムの流れや柔らかな表面のタッチによって、女性の優しさ、しなやかさを感じさせる表現のできている作品であった。

次に「優秀賞」の坂本海さんの“木”は、木のもつ自然な感じをうまく生かして無理に加工することなく、有機的な仕上がりにしている。下部に足を配置することで生き物のような効果を醸し出した。これらがうまく調和した姿になってバランス良くおもしろい形が生まれている。

また、「四国放送テレビ開局50周年記念賞」に選ばれた山野実保さんの“Pumpkin

Castle”はカボチャや小人をモチーフに自由な発想で楽しみながら夢の国を創作しているようで、その思いや気持ちがよく伝わる作品である。今回特別につくられた記念賞を受賞した。

その他、増田有美さんの“夜明け”が、しっかりとした技術でもって作られた力作であると審査員から述べられた。全体的には、今回はサイズの小さい作品が多く、やや迫力に欠けていた。今後は新人の登竜門である本展にふさわしい若さのあふれる力作を期待したい。

(今回の審査員は、松永勉、井下俊作、居上真人が担当した)

会員消息

(県展・放美展関係は除く。順不同)

居上 真人	6月	宮崎国際現代彫刻展出品	宮崎空港	
	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ	
	9月	第84回二科展：会友（無鑑査）出品	国立新美術館	
	9月～11月	第47回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園	
	11月	徳島市万福寺作品設置	徳島市	
	11月	四国巡礼八十八ヶ所一番札所霊山寺作品設置	鳴門市	
井下 俊作	12月	徳島市北井上小学作品設置	徳島市	
	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ	
	9月	第64回行動美術展：会員出品	国立新美術館	
	9月～11月	第47回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園	
	10月	第64回行動美術展大阪巡回展	大阪市立美術館	
大津 文昭	10月	第40回花と彫刻展	大阪市鞆公園	
	9月～11月	第47回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園	
河崎 良行	2月	第3回世樹展出品	東京銀座ギャラリー吉豊	
	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ	
	4月	現代日本彫刻作家展	東京都美術館	
	5月	東五反田スクエアに彫刻設置	東京都品川区五反田	
	7月	個展	徳島大学地域交流プラザギャラリー新蔵	
	8月	第24回徳島二紀展出品	徳島県立近代美術館	
	10月	第63回二紀展出品	国立新美術館	
	11月	徳島大学美術展出品	徳島大学地域交流プラザギャラリー新蔵	
	鎌田 邦宏	3月	デッサンと彫刻展	ギャラリー喫茶グレイス

	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	4月	第4回二紀会会員彫刻展	美術会館青羅
	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	8月	第24回徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	10月	第63回二紀展	国立新美術館
上月 佳代	1月	第37回徳島市芸術祭「美術展」	徳島県郷土文化会館
	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	7月	上月佳代彫刻展	徳島大学地域交流プラザギャラリー新蔵
	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	8月	第24回徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	10月	第63回二紀展：会員推挙	国立新美術館
	11月	徳島大学美術展	徳島大学地域交流プラザギャラリー新蔵
佐藤 隆	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	9月～11月	第47回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
武田亜希子	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	10月	第63回二紀展出品	国立新美術館
長岡 強	3月	第85回白日展：会員出品	国立新美術館
	6月	第39回日彫展：会員出品	国立新美術館
	10月	第41回日展：出品委嘱	国立新美術館
濱口 恵	2月～3月	第42回モダンアート徳島支部展(版画部門)	阿波銀プラザ
	4月～5月	第59回モダンアート展	東京都美術館
	7月	第59回モダンアート京都展	京都市美術館
	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	9月～11月	第47回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
林 一美	2月	シルバー人材センター会員のつどい彫刻展示	徳島
	4月	第34回徳島佛像彫刻展	四電ギャラリー
東 光司	3月～4月	神山麗し作品展	神山町
	5月	ストーンミュージアム石の彫刻展2009	高松市庵治町
	8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	8月～9月	むれ源平石あかりロードJAPAN石あかりコンテスト2009	香川県
	8月～9月	なにげない毎日ワクワク展	神山町
	9月	瀬戸の都高松石彫トリエンナーレ2009入選	香川県
	10月	第2回神山麗し作品展	神山町

松永	勉	1月	八王寺市南大沢に「光と風の協奏」設置	東京八王寺市
		1月	第37回徳島市芸術祭美術展：特別出品	徳島県郷土文化会館
		4月	徳島科学技術高校「開校の碑」設置	徳島市
		5月	第8回徳島彫刻集団主催彫刻展「松永勉展」	徳島県立近代美術館
		8月	県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
		9月	第64回行動美術展：会員出品	国立新美術館
		9月～11月	第47回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
		10月	第64回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪市立美術館
		10月～11月	第40回花と彫刻展：招待出品	大阪市鞆公園
		11月	福岡市天神四丁目計画「風景の再生」設置	福岡市
		12月	川島病院彫刻作品設置	徳島市

美術工芸部

部会長 七條 猪三郎

年間展望

◎第64回県美術展（平成21年10月10日(土)～18日(日) あわぎんホール）

平成21年（2009年）、第64回県美術展、美術工芸部門の応募点数は226点、出品者は161人で、昨年の出品数より8点下まわった。

分野別にみると、陶芸が109点で最多、次にパッチワーク、押し花、染織、ガラス、木竹、かずら、うるし、七宝金工、人形、切り絵、折り紙等多くの分野の作品が出品された。

審査は厳正を極め、午後1時から5時過ぎまで丁寧に審査に当たっていただいた。最初に入選133点を選び、その中から各ジャンルの賞候補を選び、そこから最終的に特選2点（1点は県教育長賞）、準特選4点、奨励賞3点を決定した。

入選作品133点（入選率59%）に無審査作品を加えて展示され、盛況となった。今回の審査員は茨城県陶芸美術館館長・東京芸術大学名誉教授の竹内順一先生にお願いした。

審査の総評としては、徳島県はもともと、染色や押し花が盛んで高水準だったが、今回は陶芸の水準も非常に上がっていた。その中で、これからの美術工芸の方向性を示しているものを選んだ。

技術的には高くなくても、何かを表現しようとする勢い、新しいものを生みだそうという創作意欲があるかどうかを評価の基準とした。

県教育長賞の松下敏之「鉄釉線文花器」は、全国のどんな工芸展に出しても入選する力作だ、誰が見ても文句のない優等生的な作品だ。大きさ、形も良いが、何といても縞模様尽きる。隣り合う縞同士の色が全く混ざり合っていないが、これには非常に高度な技術が必要だ、自虐的といっていいほどの大変な努力をしていることが分かる。

特選の前田道子「束の間の美」（押し花）は、黒を全面に押し出しているのが特徴で従来の押し花が表現してきた華やかさはなく、あえて暗さに挑んだ意欲を評価した。暗さによって移ろいゆく美を表現することに成功している。家庭科的なきれいな押し花でなく、美術的な押し花になっている好例といえる。全体の構図もいい。

どんな作品でも、自分独自の表現世界を築いてほしい。美術は「自分の存在とは何か」という自分発見の道だ。美術工芸は絵画や彫刻と違って、表現が直線的でないので一見

自分自身が出にくいと思うかもしれないが、実は率直に自分の人生観や考え方を出せるもの。技術が伴わないと表現できないという壁はあるが、技術よりも何かを表現したいという思いこそが大切だ。

竹内順一先生には、今回の厳しい審査の裏には、心温まるご激励や貴重なご指導をいただきました。改めて深甚の謝意を表し今後の発展の糧としたい。

特選（県教育長賞）	松下 敏之「鉄釉線文花器」（陶芸）
〃	前田 道子「束の間の美」（押し花）
準特選	下内 良一「焼締白象嵌器」（陶芸）
〃	大西 君代「ベジタブルの語らい」（押し花）
〃	矢野 藍遊「本藍染しあわせのとんぼ」（染物）
〃	大西 道夫「抽象紋様木彫花器」（木彫）
奨励賞	相原 良平「双鶏扁壺」（陶芸）
〃	佐藤 松子「偶然」（押し花）
〃	太田 裕子「匂」（染物）

◎第17回放美展（平成21年5月2日(土)～5月6日（水・振替休日） あわぎんホール）

平成21年（2009年）第17回放美展美術工芸部門は、出品点数173点で昨年よりやや減少したが、内容的には力作が多かった。そのうち、入選113点を決め、その中から20点の賞候補作品を選び、二次審査で入賞作品8点（放美賞1点、優秀賞7点）を選んだ。

展示は入賞作品、入選作品、無鑑査作品を展示した。

全般的な傾向としては、陶器が過半数を占め、他のジャンルを圧倒した感じであった。全体的にレベルは高くなっていった。特に陶芸には力作が多く、重量感あふれる大作も多く作者の個性的な形態の追求が見られるようになった。出品数が増えてきている押し花も手芸的なものから次第に主題性、創造性を重視するものが増えてきた。

その他のジャンルでも素材の追求、表現の可能性を出そうとする動きが見られるようになった。

放美賞、大貝貞雄さんの「想」（陶）は貝を連想させる、白味のある形が独特の雰囲気を持ち、醸し出していて、釉薬の仕上がりも美しく、完成度の高い作品である。

優秀賞の中からは、大西道夫さんの「抽象構成木彫レリーフ」が大胆な構成と彫刻刀の使い方がすばらしい。宇都宮二美さんのパッチワーク「飛翔」は、統一された爽やかな色彩が印象的である。前野亮治さんのファイバーワーク「記憶」は、素材の持ち味を十分に生かした秀作である。

四国放送テレビ開局50周年記念賞を受賞した佐々木里菜さんの押し花「想」は、木の

葉の使い方に工夫が見られ高校生とは思えない落ち着いた色合いが評価された。

(審査員：高橋 勇・森 明治・犬伏 絢)

放美賞	大貝 貞雄「想」(陶芸)
優秀賞	前野 亮治「記憶」(織物)
〃	宇都宮二美「飛翔」(パッチワーク)
〃	南 郁代 黒釉線文鉢「きらめき」(陶芸)
〃	大西 道夫 抽象構成木彫レリーフ (木彫)
〃	田村 純子「珊瑚礁」(陶芸)
〃	松永 卓司 花器「雪虹」(ガラス)
〃	近藤佐起江「響」(押し花)
四国放送テレビ開局50周年記念賞	佐々木里菜「想」(押し花)

会員消息

(県展・放美展は除く)

阿部 徳子	・阿部徳子西洋陶芸個展	4月	そごう徳島店
	・徳島ハンドクラフト展	12月	そごう徳島店
天野 和子	・第48回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第37回県手工芸展	11月	県郷土文化会館
	・第27回もめんの詩キルト展	11月	県郷土文化会館
	・第7回徳島版画展	11月	阿波銀プラザ
大貝 貞雄	・第37回徳島市美術展(無鑑査)	1月	県郷土文化会館
	・第37回県手工芸展(県議会議長賞)	11月	県郷土文化会館
大貝 寿子	・第37回徳島市美術展(徳島市長賞)	1月	県郷土文化会館
	・第37回県手工芸展(賛助出品)	11月	県郷土文化会館
越 由子	・第48回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
多智花佐代子	・第48回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第41回日展	10月	国立新美術館
	・第47回現代工芸美術四国会展	12月	高松、三越
永山昭一郎	・第33回創作陶芸展	8月	徳島市シビックセンター
森 賢一	・第48回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第47回現代工芸美術四国会展	12月	高松、三越
山田 和子	・2009工芸美術日工会選抜展	5月	東京日本橋高島屋
	・第19回工芸美術日工会展	6月	東京都立美術館
	・第41回日展	10月	国立新美術館

山本 和子	・ 第48回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・ 第48回日本現代工芸美術高松展	9月	高松市美術館
	・ 平成21年度全国現代クラフト展	9月	県郷土文化会館
	・ 第21回全国手工芸コンクールin兵庫	10月	兵庫県民ギャラリー
	・ 第47回現代工芸美術四国会展	12月	高松、三越
吉田 陽子	・ 陶芸文化振興財団花の器コンテスト	2月	埼玉県陶芸美術館
	・ 陶芸文化振興財団展	6月	国立新美術館
四十宮年代	・ 第37回徳島市美術展（特別出品）	1月	県郷土文化会館
	・ 40年記念個展「創る彩る」	5月	県郷土文化会館
	・ 第22回ねりんピック北海道	9月	北海道総合体育センター
	・ 第24回国文祭しずおか（受賞）	10月	静岡コンベンションセンター
	・ 第15回県健康福祉祭美術展	11月	県郷土文化会館
綾野 昌子	・ 第19回工芸美術日工会展（奨励賞）	6月	東京都立美術館
野村 裕子	・ ふう布パッチワークキルト展	11月	徳島市シビックセンター
矢野 款一	・ 日本工芸会正会員展	5月	東京日本橋三越
	・ 日本工芸会四国会展	10月	高松、三越
四宮 千代	・ つくし陶遊クラブ作品展	11月	鳴門市役所
田村栄一郎	・ 日本新工芸展	5月	国立新美術館
	・ 全国伝統的工芸品公募展	12月	全国伝統的工芸品センター
田村 純子	・ 日本新工芸展	5月	国立新美術館
	・ 日本新工芸四国会展	7月	高松、三越
	・ 第41回日展	10月	国立新美術館
斉藤 和彦	・ 第42回日本七宝作家協会国際展	1月	東京都美術館
	・ 第48回日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	・ 第17回ミレー友好協会展（奨励賞）	4月	大阪市立美術館
橘 恵	・ 第41回北島町文化祭	10月	北島町総合庁舎
丸居 哲雄	・ 丸居哲雄の世界展	4月	上板町技の館
	・ 丸居哲雄の世界展	5月	キョーエイ鳴門店
	・ エナジー2009	10月	文化の森21世紀館
	・ 上板町文化祭	11月	上板町中央公民館
川真田 弘	・ 暮らしに生かす藍染展	7月	藍住町、藍の館
	・ 川真田弘藍型絵染展	8月	鳴門池内コーヒー店
	・ 川真田弘藍型絵染展	9月	函館元町ギャラリー 村岡

	・ 藍染液管理調整法講習会	9月	北海道北広島市長屋山荘
	・ 藍染講習会	9月	北海道森町緑の村
	・ 華藍	10月	石井町外山製藍所
	・ 美馬市文化祭	11月	美馬町青木邸
	・ 川真田弘藍型絵染展	12月	阿波銀鳴島支店
藤井 哲信	・ 第48回日本クラフト展	4月	東京丸ビルホール
	・ 藤井哲信吹きガラス展	6月	心齋橋大丸
	・ 藤井哲信ガラス展	7月	そごう徳島店
	・ 徳島ガラス展	10月	県立近代美術館
南 泰樹	・ 総合美術展	7月	鴨島文化研修センター
	・ 吉野川市文化祭	11月	川島体育館
	・ 高越クラブ展	12月	貞光ゆうゆう館
南 郁代	・ 総合美術展	7月	鴨島文化研修センター
	・ 吉野川市文化祭	11月	川島体育館
	・ 高越クラブ展	12月	貞光ゆうゆう館
曾江 司	・ 美馬市文化祭	11月	うだつアリーナ
龍木 秀子	・ 第48回現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	・ 第48回日本現代工芸美術高松展	9月	高松市美術館
	・ 第47回現代工芸美術四国会展	12月	高松、三越
	・ アメリカンキルトコンテスト	4月	米国ケンタッキー州パヂユカ
小栗加代子	・ 第48回現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	・ 「布、謳う」出版記念個展	4月	阿波銀プラザ
	・ キルギス、日本ファイバーアート交流展	10月	キルギス国立美術館
	・ 第41回日展	10月	国立新美術館
	・ 第27回もめんの詩パッチワークキルト展	10月	県郷土文化会館

書 道 部

部 会 長 荒 井 彭 仙

年間展望

◎第64回県美術展（第2期10月20日(火)～28日(水) あわぎんホール）

今回の応募数は824点、出品者数539名であった。前回より20点、9名の減となったが、2点出品数は全体の53%を占め、例年通り、制作意欲と県展協力への志が窺えた。

審査員には、日展評議員・鈴木春朝先生、日展委嘱・山本高邨先生、書道芸術院理事・砂本杏花先生をお迎えした。漢字・篆刻を鈴木先生、仮名を山本先生、近代詩文・前衛を砂本先生が主として担当され、各部門を通して全体への均衡を図られた。

——「2点出品に対しては書風を替え、優劣つけがたい状態にまで書きこむこと」

「筆を持ったら悩まず、迷わず、リズムに乗って書くこと」

「自分の個性や、何を書きたいかという思いをはっきり打ち出すこと」——のアドバイスに併せて、県展は試練・勉強・研究の場。今後も活用の中を広げ、中央展へのステップとなることへの期待を添えられた。

◎第17回放美展（5月2日(土)～6日(水・振替休日) あわぎんホール）

書道部門は、出品数172点（前回175）、出品人数153名（前回149）であった。今回は高校生から選ばれる四国放送開局五十周年記念賞1点と、放美賞1点、優秀賞7点、入選104点となり、役員を含めて展示数は120点であった。

（審査員：清水桂月・竹田和代・浜 佳香）

会員の訃報

（直心会 相談役）

長江頌石（達造）氏が8月2日、御逝去されました。4月には米寿記念の書作展を開催。人脈豊かに教育界、書道会に功績を残されました。享年88歳。心からご冥福をお祈り申し上げます。

◎社中展・個展等

- | | | | |
|-------------|---------|--------|-----|
| ○玉城乾香書作展 | あわぎんホール | 1月10日～ | 12日 |
| ○第33回東玄書道会展 | 阿波銀プラザ | 1月17日～ | 19日 |

○ 第4回桂和会書展	徳島市シビックセンター	2月13日～	15日
○ 第29回書研社展	徳島市シビックセンター	2月20日～	22日
○ 第43回清潮書作展	あわぎんホール	3月6日～	8日
○ 第72回徳島書芸院展(傘寿5人展と共に)	徳島市シビックセンター	3月12日～	15日
○ 米寿記念長江頌石書作展	県立文学書道館	4月10日～	12日
○ 第38回光輪社書作展	県立文学書道館	4月17日～	19日
○ 東南光・王定成二人展	陝西省美術博物館	5月3日～	5日
○ 第18回大叢会書作展	あわぎんホール	5月8日～	10日
○ 第6回五果会書展	県立文学書道館	6月26日～	28日
○ 松林会書展	阿波銀プラザ	7月10日～	12日
○ 第32回泉心会書作展	阿波銀プラザ	7月17日～	20日
○ 第22回長玄書道会展	あわぎんホール	7月18日～	20日
○ 第3回翔和会かな書作展	徳島市シビックセンター	7月24日～	26日
○ 第3回幽の会書展	徳島市シビックセンター	7月31日～	8月2日
○ 第15回東南光書作展	ガレリア新蔵	8月6日～	16日
○ 第36回双暢会書展	大和高田市民会館	8月28日～	30日
○ 第73回徳島書芸院展	あわぎんホール	9月3日～	6日
○ 第39回直心会書展	あわぎんホール	9月18日～	20日
○ 第38回雪心会書展	あわぎんホール	9月19日～	21日
○ 書朋六人展	県立文学書道館	10月2日～	4日
○ 第21回陸月会書展	徳島市シビックセンター	10月21日～	23日
○ 向井京子三世代書展	阿波踊り竹人形の里 時代屋ギャラリー	11月1日～	30日
○ 第3回四国由源書展	あわぎんホール	11月21日～	23日
○ 第4回尚真書展	阿波銀プラザ	12月4日～	6日
○ 第13回せせらぎ書展	徳島市シビックセンター	12月5日～	7日
○ 上田溪水遺作展併催第24回正録会書展	あわぎんホール	12月11日～	13日
○ 第15回六書会書展	あわぎんホール	12月11日～	13日

会員消息

役員で出品した人・入賞者（平成21年1月～12月）順不同

○ 第50回太玄会書展（東京都美術館 1/11～18）

第45回太玄会役員書展（東京セントラル美術館 5/12～17）

理事・運営委員 春藤大耿

理事・実行委員 近藤静苑・田村昇鶴・富久鳴泉・中尾勝子
理 事 大櫛一峰・岡島順子・下村清子・鈴木惠理
審査会員 春藤玉秀・弘田長風・馬居汀香・木村弘子・小出圭子・瀬藤豊子
西宇明美・廣島白鷺・吉田美恵子
記念賞 近藤静苑
特別賞 馬居汀香
準推選 米木祥穂
準特選 妹尾敏子

○第40回正筆会菁華書作展（東京銀座画廊美術館 1 / 20～25）

総務理事 亀石文苑・竹田和代

○第40回現代女流展新進作家展（東急百貨店本店 2 / 5～11）

出品 玉城乾香

○第63回日本書芸院展（大阪市立美術館 2 / 17～22、4 / 14～19）

一科審査会員 清水桂月・長江頌石・能仁華瑤・隅田英二・高田青蓮・矢部知子
山口華城・薄田玲泉・河野真流・森 光翔・宮守崇流・宇山泰鳳
向井京子・福永美泉

二科審査会員 小西玉翠・谷口清水・八木藍玉・横田典子・川村春琴・上田輝芳
井上虹雨・倉本景雨・赤川景舟・山本景琴・長谷美峰・竹田和代
安原照代・稲木裕美

大 賞 松永翠月・上田輝芳・辻 紅雲

特別賞 片山芳明・遠藤玉流・吉田靖流・加村喜美子・稲木裕美

特 選 惠美春陽・丸岡春暁・谷 玲琴・阿部博子・井上小百合・折野佳子
古谷和代・寺尾俊通・松本トキ子・向井境子・中筋良江・関根史子

一科推薦賞 河野多美・佐野陽子・井上智世

二科推薦賞 坪井恵利佳・南本智子・古田知子

○第45回創玄展（国立新美術館・東京都美術館 3 / 5～15）

一科審査員 荒井彭仙・長原皐聖・玉城乾香・浜 佳香

二科審査員 永松春苑・多田清芳・芝原醒鶴

審査会員 岩本志豪・大島溪石・吉田和婉・丸岡香貞・大西清葩・朝三皐如
平岡幽琴・山口幽徑

秀 逸 糸田川皐妙・大井皐霄・川端康清・岸 緑香・児玉幸子・玉城乾舞
野口皐玖・福山皐怜・丸田恵風

○日本書芸院役員展（大阪国際会議場 4 / 21～26）

常務理事 勝瀬景流

参 与 東 南光

- 第33回由源会全国書展（マイドーム大阪 5 / 23～25）

常任無鑑査 川村春琴

幹 事 中村春岳・土井和翔

豊中市教育委員会賞 丸岡春暁

富田市教育局賞 谷 玲琴

- 第37回日本の書展・関西展（大阪国際会議場 5 / 28～31）

現代書壇代表 勝瀬景流

招 待 東 南光・春藤大耿・荒井彭仙・玉城乾香

秀 抜 選 清水桂月・武市鳴雲・長江碩石・能仁華瑤・隅田英二・山口華城
川村春琴・竹田和代・浜 佳香・多田清芳

- 第32回日本かな書展（東京高島屋 5 / 27～31）

副 理 事 長 藤若美風

評 議 員 松本清香

正 会 員 長谷美峰

- 第61回朝陽書道会展（岡山県天神山文化プラザ 6 / 23～28）

理 事 長 勝瀬景流

常任総務 薄田玲泉

常任理事 赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・河野真流・倉本景雨・佐川菁流
竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔

- 第47回水穂会書展（京都市立美術館）

総 務 東 弥生

- 第61回毎日書道展（国立新美術館 7 / 8～8 / 2）

（愛媛県立美術館 8 / 11～16）

審 査 会 員 荒井彭仙・玉城乾香

会 員 長原阜聖・永松春苑・岩本志豪・芝原醒鶴・浜 佳香・多田清芳

秀 作 賞 吉田和婉・平岡幽琴

佳 作 賞 大井阜霄・木田史香・武田玲香・小野宙成（大字書の部）

- 第26回読売書法展（国立新美術館 8 / 21～30）

（香川県立ミュージアム他 12 / 3～6）

常任理事 勝瀬景流

理 事 東 南光・東 弥生・薄田玲泉・隅田英二・亀石文苑

幹事 春藤大耿・清水桂月・長江碩石・能仁華瑤・高田青蓮・山口華城
河野真流・上田輝芳・倉本景雨・竹内虹舟・宮守崇流・佐川菁流
井上虹雨・山本景琴・辻 尚子・長谷美峰・宇山泰鳳・向井京子
竹田和代・福永美泉

評議員 駒田水洗・河野多美・松永翠月・林 美雪・鈴木恵理・馬居汀香
森 光翔・遠藤玉流・背川景玲・皆谷芳穂・井上景玄・吉田靖流
加村喜美子・内田麻紀・阿部博子

会友 八木藍玉・関根史子・吉岡美雲・西岡花春・引田長風

読売俊英賞 上田輝芳

奨励賞 林 美雪・川村春琴・森 光翔・遠藤玉流

特選 佐野陽子・松本景芳・井内晃流・古谷和代

秀逸 石井祥光・坂本杉香・片山芳明・安原照代

○第26回産経国際書展（東京都美術館 9／1～6）

専管理事 藤若美風

評議員 松本清香

○第41回日展（国立新美術館 10／30～12／6）

会員 勝瀬景流

入選 東 南光・駒田水洗・射場少藍・河野多美・多賀晴代・薄田玲泉
佐川菁流・亀石文苑

○第35回創玄現代書展（東京セントラル美術館 11／3～8）

選抜入選 平岡幽琴

○第23回寒玉会展（東京日本橋高島屋）

常任総務 長谷美峰

○第25回国際蘭亭筆会書法展（韓国仁川総合文化芸術館 11／21～26）

国際蘭亭筆会日本部

理事長 東 南光

理事 東 弥生

○第49回璞社展（大阪市立美術館 12／1～6）

参事 春藤大耿

参与 清水桂月・谷口清水・藤田喜美・馬淵直枝・春藤玉秀

相談総務 東 南光

常任理事 駒田水洗・武市鳴雲・能仁華瑤・馬居汀香

理事 岡島朱伯・河野多美・田上洋香・野口有香・花本清香・弘田長風

松浦翠篁・松永翠月・南 溪石・八木藍玉・横田典子・林 美雪
鈴木恵理・石井祥洸・伊藤景風・須見智香・永岡光翠・吉平伶光
評 議 員 上田美智・大本華越・片山芳明・園尾恵風・谷本真由美・長尾愛香
中西瑤汀・前川林谷・森本真由美・春藤真紀・梯 高鳴・河野美鶴
椎野藍園・平野東郷
特 別 賞 北村浩子・遠藤清子・恵美春陽・佐野陽子
優 秀 賞 丸岡泉石・高原智世・岡部比登美・山下栄祥・稲井華風・大塚扇穂
籾 爽韻・藤田鵬光
璞社会長賞 多賀晴光
特 選 高柳早秀・笠井仁美・渡部桂玉・坪井恵利佳・富崎瑞光
佳 作 井上加芳・服部紫光・山崎真美・平田貴洸
秀 逸 乾 桂泉・三好恵子・日野出夏穂
奨 励 賞 磯川味佳・大塚秀峰・柏尾美峰・三木悠洸・山口彰良・山口千恵子
桂 玲光

○第61回正筆書展（兵庫県立美術館 12/12～13）

総 務 理 事 亀石文苑
常 任 理 事 加村喜美子・内田麻紀・斎藤弥生
準 大 賞 折野佳子

○第31回日本書道学院展（東京都美術館 12/9～14）

客 員 勝瀬景流
審 査 員 薄田玲泉・河野真流・赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・倉本景雨
佐川菁流・竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔・山本景琴・背川景玲
大 賞 井上景玄
準 大 賞 遠藤玉流

デザイン部

部会長 福井 章

年間展望

◎第17回放美展（5月2日(土)～5月6日(水・振替休日) あわぎんホール)

応募点数67（出品人数64）。審査は美協デザイン部、坂野美恵子、四十宮隆志、吉本實が担当し、40点（入選率59.7%）を入選とした。その中から、的確な表現とメッセージ性が評価され、放美賞に「identity」の山田悠子が、優秀賞には籠谷弘高、林敏雄、篠崎未来が選ばれた。また四国放送テレビ開局50周年記念賞は松原彩音が受賞した。審査員の坂野、四十宮、吉本と運営委員の北島豊嗣、田中一郎、美協理事坂本三千一、沢口功が出品し、入選作と併せて47点が展示された。

◎第64回徳島県美術展（第1期10月10日(土)～18日(日) あわぎんホール)

審査員に東京芸術大学教授河北秀也氏を招いた。1時間30分のスピード審査だったが、補佐役として付いて感じたのは、審査員の作品に対する集中力の強さで、圧倒された。

応募点数78（出品人数53）。入選41点（入選率52.6%）から特選2（内特別賞1）、準特選3、奨励賞3が選出された。

特選・徳島新聞社長賞には「ACID RAIN」の谷口佳織作品が、全体の不思議な印象が良く、造形的にもシンプルで素晴らしい、と選ばれた。特選の一宮美穂の「古代都市☆剣山」は、社長賞をどちらにするか迷った意欲作で自由な世界を創りあげている、と審査員に評価された。準特選は峯川紗也子、千崎太郎、西林良枝（部会員）が、奨励賞は斎藤志津子（部会員）、近清さよ子、森本葉月が受賞した。その他、部会員の西林良枝、斎藤剛、四十宮隆志（2点）が入選した。審査員からは「全国的に環境問題や反戦をテーマにしたものが多いが、徳島は環境問題などの他に家族愛や人との触れ合いなど多彩で、審査が楽しかった。」との評をいただいた。会場には特別出品の坂本三千一、福井章、招待作家の斎藤繁次、坂野美恵子、敷島のり子の5点を加えて46点が展示された。

◎「ピカソ de さかそ！2009」屋外ポスター展

（10月31日(土)～11月8日(日) 文化の森シンボル広場）

文化庁地域文化芸術振興助成事業、徳島県立近代美術館デザインプロジェクトの「ピカソ de さかそ！2009」屋外ポスター展に、JAGDA（日本グラフィックデザイナー協会）会員でもある美協部会員坂本三千一、敷島のり子、吉本實、四十宮隆志と、生田典

子、坂野美恵子、西林良枝、田中一郎の部会員が参加した。近代美術館所蔵の「ピカソ」の作品をテーマにした、全国的に著名なデザイナーも多数結集したポスター展であった。

会員消息

(県美術展・放美展関係は除く) 2009.1~12

■生田 典子

10月~11月 文化の森 徳島県立近代美術館デザインプロジェクト屋外ポスター展
PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ！」出品

(県文化の森シンボル広場)

■斎藤 繁次

2月 サイトウシゲジ イラスト展 (徳島市昭和町ドクターエンドー徳島店)

■坂野美恵子

2月 第51回四広連広告美術コンクール審査委員長

3月 平成21年度春季二科展：会員出品 (東京都美術館)

8月 第94回二科展デザイン部門審査員 (東京国立新美術館)

9月 第94回二科展デザイン部門：会員出品 (東京国立新美術館)

10月~11月 文化の森 徳島県立近代美術館デザインプロジェクト屋外ポスター展
PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ！」出品

(県文化の森シンボル広場)

■坂本三千一

10月 2010年日めくりカレンダー (8月2日担当)

365日365人、365枚の新企画の作品カレンダー

主催 JAGDA (日本グラフィックデザイナー協会) + HEIDELBERG

10月~11月 PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ！」出品

主催 文化庁、県民文化祭開催委、徳島県立近代美術館他

11月 「国際平和ポスターコンテスト」審査委員長

主催 ライオンズクラブ国際協会 336-A地区 (偕楽園)

■沢口 功

1月 第37回徳島市芸術祭美術展：審査員出品 (あわぎんホール)

7月 第9回個展「沢口功アート展2009」

38年間のデザイン・アート作品53点余り展示 (徳島県立近代美術館)

12月 第38回歳末チャリティ作品・色紙即売展

(徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店)

■敷島のり子

4月 第11回「屋外ポスター展 in はなはるフェスタ」企画開催

10月～11月 PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ！」出品

(県文化の森シンボル広場)

■田中 一郎

10月～11月 PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ！」出品

11月 第29回ヴォーカルグループ Sole コンサート

チラシ、チケット、プログラム表紙デザイン

■西林 良枝

1月 第37回徳島市芸術祭美術展 特別出品

3月 デザインを手掛けた「柚子っ子」が優良ふるさと

食品中央コンクール農林水産省総合食料局長賞受賞

10月～11月 PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ！」出品

(県文化の森シンボル広場)

11月 世界子供救援チャリティ 舞と語り・新春事始めポスターデザイン

■福井 章

2月 2009 フレッシュデザイナーズアワード審査 (徳島新聞社)

4月～5月 海陽町立博物館企画展 福井章《阿波百景》水彩原画展 (海陽町立博物館)

9月 第5回徳島県こども美術展絵画部門審査 (徳島新聞社)

12月 第38回歳末チャリティ作品・色紙即売展

(徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店)

・徳島新聞朝刊「阿波路イラストぶらり旅」絵と小文 (毎月1回連載)

・とくしま“あい”ランド推進協議会情報誌「いのち輝く」イラスト

(年3回連載)

・徳島調停協会連合会会報「和と情理」イラストシリーズ (年2回連載)

■吉本 實

1月 第37回徳島市芸術祭美術展 デザイン部門特別出品 (あわぎんホール)

3月 徳島県観光戦略事業

- ・「徳島産直市観光マップ」(近いよ!徳島)
- ・「高速道路ETC割引に伴う観光戦略」
アートディレクション・イラスト・デザイン制作(徳島県観光戦略局)
- 6月 徳島花へんろ事業
 - ・「キャラクター」アートディレクション・デザイン制作
 - ・「徳島花のある風景フォトコンテスト」ポスター、パンフレット、アートディレクション・デザイン制作(徳島県観光協会)
- 10月 徳島県花基金事業
 - ・「キャラクター」アートディレクション・デザイン制作
 - ・2010年版「徳島花へんろポスターカレンダー」アートディレクション・デザイン制作(徳島県観光協会)
- 10月~11月 文化庁地域文化芸術振興助成事業
 - ・PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ!」ディレクション・デザイン参画、ポスター出品(徳島県立近代美術館)
- 12月 第38回歳末チャリティー作品・色紙即売展
(徳島新聞社会文化事業団・そごう徳島店)

■四十宮隆志

- 4月 「カラーユニバーサルデザイン野外ポスター展」
グラフィックデザイン(ポスター)1点出品(東船場ボードウォーク)
- 6月 JAGDA 日本グラフィックデザイナー協会
「第26回通常総会&福田繁雄追悼式」出席(東京ミッドタウン)
- 7月 「2009」APAN SCAPE 日本ドナウ交流年「美しき日本展 in ソフィア」
グラフィックデザイン(タペストリー)1点出品&レセプション参加
(ブルガリア、国立外国アートギャラリー)
- 10月~11月 PICASSO×de FESTA 2009「ピカソ de さかそ!」グラフィックデザイン
(ポスター)1点出品(県文化の森シンボル広場)
- 12月 第38回歳末チャリティー作品・色紙即売展
グラフィックデザイン(額入りポストカード)4点出品(そごう徳島店)

第64回県展審査評

[日本画]

審査員 西田俊英
(日本美術院同人・評議員)

レベルが高く、特に賞候補を絞った後からは選考が難しかった。四国放送社長賞の森崎雅子「夏の池」からは、日本画の特色の一つである「静けさ」がひしひしと伝わってくる。そこに心をひかれた。

波の上に漂う白光が微粒子となって、池全体にあまねく降り注いでいる。自然をよく観察し、理解しているのだろう。光や水草の描き方などは丁寧で、水面のゆらっとした感じがうまく出た。主役は光。小動物などは「うるさく」なりがちだが、この絵では脇役としての立場をわきまえ、光に包まれた世界が壊れていない。その辺りがこの絵の良さだ。

特選の平野真里「室内」は明暗のコントラストが美しい。同じ光が主題でも「夏の池」ではやさしい光がテーマで、「室内」は突き刺す光と対照的だ。

壁、床、ドアなどは多色を用い、全体を統一したトーンでうまくまとめた。ただ、人物を描いたポスターが浮き出た感がある。もう少し色調を抑えると、さらに良かったはず。そうすれば「戸外＝未来、室内＝現実」という芸術性が強調され、今以上に神秘感や、画面の中に引きずり込まれるような感覚が生まれただろう。

入賞以外でも、若い人特有の思い切りの良さや息づかいを感じさせる作品が多かった。意外にも徳島や四国の風土を取り上げた作品が少なかったように思う。表現力がある人が多いのだから既成概念にとらわれず、勇気を持って、もっと個性的に描いてみよう。

[洋画]

審査員 塗師祥一郎
(日展常務理事)

類型的な作品が少なく、バラエティーに富んでいた。自然と相對し、ひたむきに努力していると感じられ、好感が持てる。阿波踊りや人形浄瑠璃など、地域性豊かな作品が多いのも興味深く感じた。

審査においては、絵の内容の豊かさを重視した。題材の選び方や、それをどういう風に

受け止めて絵にしたのかが伝わってくる作を賞に選んだ。

県美術家協会会長賞の竹内れい「白いライオン」は、現代社会をピエロに置き換えた、シニールな表現が目を引く。顔のないライオンや、背景に浮かび上がる原爆雲、入り組んだ迷路などのモチーフから、描き手が感じている、混沌とした現代社会への不安が伝わってくるようだ。構成もよく、技術面でも申し分ない。

特選の藤井香世「刻のはざま」は、うずくまる女性を中心に、トランプやユリの花、ガラスケースに入ったぬいぐるみ、カレンダーなどを配置。物語性が感じられる。デッサンに力があり、大胆で独特な絵の具のつけ方は、工夫されていて面白い。

香西咲紀「瀬戸の廃屋」は、風景をひたむきに写生しており、哀愁を感じさせる。廃屋を描いた作品はよく見るが、構図を取るのが難しい。しっかりした建物が朽ちていく様子を、土の色である茶色を基調に、丹念に描いていて、よくまとまっている。

選外には、いい題材を選びながらも技術的に未熟で説得力を持たせられなかった作品もあった。「この絵を描きたい」と意欲に燃えると、絵に活気が出て、モチーフを見る目にも新たな発見が生まれる。自分の描きたいものを大切にしながら、努力を重ねてほしい。

[写 真]

審査員 田 沼 武 能
(日本写真家協会会長)

全体としては「平均点以上」の作品が多かった。撮影者の感動が表れている写真を残し、さらに、その感動がより強く見る人にも伝わってくる作品を入賞とした。

県知事賞は阿部啓三「秋日和」。特別賞は2年連続で同じ作者だそうだが、造形的に表現した昨年とは作風が全く異なり、今年は明るいトーンで現代的に表現している。

少女が背伸びをして、部屋の中をのぞき込んでいる姿がよく効いている。両端の写真は、のどかな家のワンシーンを引き立てる脇役に徹し、「秋日和」というタイトルにふさわしい作品に仕上がった。(中央の写真で)壁のピンクとドアなどの白のバランス、色づかいも素晴らしい。

特選の林広司「少年」は子どもの表情と、水があごからしたり落ちているところがいい。シャワーをかけるところまではよくやるが、なかなかこうはいかない。瞬間を逃さずとらえた作者のうまさを感じる。

志摩育美「楽園」は色合いが美しい。3枚の写真に撮影されている魚、サンゴ礁の情景はすべて違うが、海のブルーが共通していて一枚のパノラマを見ているような効果が生ま

れた。

矢部弘子「未来への熱き心」では、歴史的な建物と近代的な衛兵のコントラストが強調されている。まとめ方がきれいでシンプル。自分のイメージをうまく構成したところが成功の要因だろう。

上位の作品は「ここを見せたい」という主張がはっきりしている。何となく撮った写真は、見る人に何となくしか伝わらない。つまり、何を撮りたいのかをはっきりさせないと、あいまいな写真になってしまう。新しい発見や感動をどう写真に収めるか、よく考えながら撮影してください。

[彫 刻]

審査員 津 田 裕 子
(女子美術大学教授)

幅広い年齢層の作者から、木、石こう、石、ガラスなどさまざまな素材を用いた作品が集まった。各自の制作に懸ける思いがこもった作品ばかりで、評価をつけがたかった。作者がどのくらい自分の世界観を伝える努力をしているか、素材の持ち味を駆使して表現できているか、という点を中心に審査を行った。

徳島県議会議長賞の高丸公相「惑う星」は、時代が求める感性に合った作品。土と樹脂という、異なる特性を持った素材を見事にマッチさせ、無機質さの中に生命の息吹を感じさせる作品に仕上げた。樹脂部分の量感と亀裂、空洞に入れた土のバランスから、作者の表現したい世界がしっかりと伝わってきた。

準特選の木村大志「ウェザーニュース」は木の風合いがうまく生きている。彩色も効果的。同じく準特選の山橋大二郎「少年」は、作品の持つ「静けさ」が見る者の心に染み入るような印象を受けた。

多様な素材、多様な価値観が存在する時代だ。賞にこだわらず、自分の表現したいものを自由に、思い切って作ってほしい。彫刻は決して専門的に学んだ人のための芸術ではない。紙や布など身近な素材からも作品はできる。多くの人に彫刻の魅力を知って、好きになってもらいたい。

[美術工芸]

審査員 竹内 順一
(茨城県陶芸美術館長)

徳島県はもともと、染色や押し花が盛んで高水準だったが、今回は焼き物の水準も非常に上がっていた。その中で、これからの美術工芸の方向性を示しているものを選んだ。技術的には高くなくても、何かを表現しようとする勢い、新しいものを生み出そうという創作意欲があるかどうかを評価の基準とした。

県教育長賞の松下敏之「鉄釉線文花器」^{てつゆう}は、全国のどんな工芸展に出しても入選する力作。だれが見ても文句のない、優等生的な作品だ。大きさ、形もいいが、何といっても縞模様に尽きる。隣り合う縞同士の色が全く混ざり合っていないが、これには非常に高度な技術が必要。自虐的といっているほどの大変な努力をしていることが分かる。

特選の前田道子「東の間の美」(押し花)は、黒を前面に押し出しているのが特徴。従来の押し花が表現してきた華やかさではなく、あえて暗さに挑んだ意欲を評価した。暗さによって表題の通り、移ろいゆく美を表現することに成功。家庭科のきれいな押し花ではなく、美術の押し花になっている好例といえる。アジサイの葉を配置した全体の構図もいい。

自分独自の表現世界を早く築いてほしい。美術は「自分の存在とは何か」という自分発見の道。美術工芸は、絵画や彫刻と違って、表現が直線的でないので一見、自分自身が出にくいと思うかもしれないが、実は率直に自分の人生観や考え方を出せるもの。技術が伴わないと表現できないという壁はあるが、技術よりも何かを表現したいという思いこそが大切だ。

[書 道]

●漢字・篆刻

審査員 鈴木 春朝
(日展評議員)

60年を超える伝統の上に成り立ち、高いレベルが維持されている。他県では書風が偏ることもあるが、多彩な作品を目にすることができた。個性的で、特に心に響いてきた4点を特選とした。入賞・入選が自信や励みとなって、中央展へのステップとなることを期待している。

四宮千春「王濤詩」は行間の取り方が絶妙で、ゆったりとした運筆と相まって、おおらかな作品に仕上がっている。漢字の横作品は構成が難しいが、中央部分にうまく渴筆で盛り上がりを作るなど、技量の高さを感じさせた。

対照的に、佐野陽子「巖一鵬詩」はそれぞれの線に厳しさがある。その上、肥瘦^{ひそう}が組み合わせあって、あか抜けたさわやかさ、白と黒の緊張感というものが伝わってくる。見ている者は身の引き締まる思いがするほどだ。

谷本洋子の「白楽天詩」は「打楽器的な美しさ」が黄色い料紙にうまく表現されている。一つ一つの字形が面白い。が、それ以上にサンバのようなリズムを感じる。それが全体の統一感を生み出している点が印象的だ。

東野恵巳「張肯詩」も料紙に書かれ、こちらは遅速や余韻のある文字の流れが美しい。まるでソナタを聞いているよう。白黒とは違う、ふんわりとしたムードが漂い、色気までも感じさせるところにひかれた。

篆刻は、彫ることが優先されすぎ、印と文字がアンバランスでたどたどしい作品が多かった。もっと書く勉強もしてほしい。

2点の出品者が多いが、一つの作品は良いのに、もう一方が見劣りするケースがあった。書風を変え、自分では優劣をつけがたい状態まで書いた2点を出せるようになれば理想的。作品を仕上げ、審査される過程で学ぶことも多いはずだ。県展は試練、勉強、研究の場。せっかく複数の出品が認められているのだから、うまく活用しない手はない。

● 仮 名

審査員 山 本 高 邨
(日展委嘱)

レベルが高く、緊張感をもって審査に当たった。選外にも内容のいい作品が数多く、一点を決めるのに苦勞した。帖巻の出品が認められているのは全国的にも珍しい。作品の幅が広がった。審査では、作品全体の流れを重視し、丁寧に温かい印象のものを選んだ。

徳島市長賞の詫間勝子「春たちける（古今和歌集から）」は、紀貫之らの22首を丹念に巻子に仕上げた労作。これだけ多くの文字を破たんなく書ききるのは素晴らしい。線の太細、墨の潤滑が心地よく、抜きん出ている。計画した美しさではなく、よく勉強し、書き慣れることで出てくる構成美だ。

特選の宮守とみ「天の原（西行の和歌）」は、しっとりとした力強さがある。中央に墨を多く使って力強い線を、最後の2行は墨の量を控えて静かに終わらせる配慮がなされている。渴筆の文字の勢いは、スケールの大きさを感じさせる。渴筆と潤筆のコントラストが美しい作品。

紙面から、書き手の悩みが伝わってくる作品もあった。書く前に構成を考えることは必要だが、悩みは運筆のリズムを変えるので、筆を持ったら悩まず書くことだ。仮名は歌を心の中によみがえらせて、紙に向かってほしい。古典に親しむ気持ちが、文字に自然ににじみ出るとさらにいい作品になる。

●近代詩文 前衛

審査員 砂 本 杏 花
(書道芸術院理事)

出品はグループや結社の偏りがなく、淡墨から濃墨、多字数から少字数と多様性に富み、水準も高かった。

特選の幸田康代「川崎洋詩」は、大字と小字の組み合わせにわざとらしさがなく、漢字とひらがながうまく調和している。特に「鳴」の字には、古典からの熱心な勉強ぶりがうかがえる。表具の枠の色を深紅にしたことも、淡墨と絶妙に合っている。

長原七与「田代卓詩」は、行間の生かし方のうまさに尽きる。墨と余白とのバランスが非常にいい。また、細い線と太い線をうまく使い、立体感がある。自然な感じで書き始め、余韻の残る終わり方で静謐な印象を生み出している。

前衛も注目すべき作品は多かった。準特選の林浩一「遊」は、やや斜めにした字形に横画を効かせ、おしゃれでモダンな構成。硬い筆を使って墨のしぶきを飛ばしているのも嫌みがなく、効果的だった。

どの展覧会でもいえることだが、グループや結社ごとで似た作風になりがち。自分の個性や、何を書きたいかという思いをはっきり打ち出さなければならない。手本や指導者の言うことにこだわりすぎず、自分だけのアイデアを出そうと心掛けてほしい。

[デザイン]

審査員 河 北 秀 也
(東京芸術大学教授)

全国的に環境問題や反戦を題材として取り上げる傾向にある。徳島県も環境問題を扱ったものは多かったが、それ以外に友愛や家族愛、人と人との触れ合いなどテーマが多彩で、審査をしていて楽しかった。コンピューターグラフィックスが少なかったことにも好感を持った。

徳島新聞社長賞の谷口佳織「ACID RAIN」は、全体に漂う不思議な印象がいい。酸性

雨という暗い表現になりがちな題材を取り上げながら、明るい色合いで仕上げたのがよかった。雨粒を座金（ボルトとナットの間に挟む丸い金属片）で表現しているのが面白く、植木鉢から生えた人間、首から伸びた花など、配置もうまかった。

特選の一宮美穂「古代都市☆剣山」は、社長賞にしようか、最後まで迷った意欲作。イルカが空を飛んだり、カメレオンが地面をはったりと、自由自在に夢のような世界をつくり上げている。テーマは多様性かもしれないし、楽園かもしれない。いろんなどらえ方ができる作品だ。

今、世界はさまざまな問題を抱えている。それを題材として取り上げたい気持ちは分かるし、素晴らしいことだが、深刻なテーマを暗く表現することは比較的簡単。それでは見る人にアピールしない。深刻なテーマをどうやって明るい表現方法に昇華するかに取り組んでほしい。

平成21年度 第64回徳島県美術展（県展）公募規定

部門 区分	日本画	洋画	写真	彫刻
搬入日	9月27日	9月26日	10月4日	9月27日
搬入先	あわぎんホール（県郷土文化会館）3F 展示場			
審査日	9月27日	9月27日	10月4日	9月27日
審査員	西田 俊英	塗師祥一郎	田沼 武能	津田 裕子
出品料	協会員 1点目 3,500円 その他の方 4,500円 2点目からはすべて 1,500円			
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開作品に限る ・点数は制限なし ・小・中学校在学者は出品できない ・70.0cm×47.0cm（額縁を除いて）以上でタテヨコ190cm（額縁を含む）以内（ガラス・アクリル不可） ・吊り紐 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・組・単とも半切及びA3から全倍サイズで画面の長辺が40cm以上80cm ・スクエアサイズ（正方形）は一片が30cm以上50cm ・パネル張りに限る ・無鑑査以上は上記サイズの単写真に限る 	同 左
入賞	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 3点 準特選 6点 奨励賞 5点 入選 規定数	特選 4点 準特選 9点 奨励賞 8点 入選 規定数	特選 1点 準特選 2点 奨励賞 2点 入選 規定数

部門 区分	美術工芸	書道	デザイン
搬入日	9月27日	10月2日	10月4日
搬入先	あわぎんホール（県郷土文化会館）3F 展示場		
審査日	9月27日	10月3日	10月4日
審査員	竹内 順一	鈴木 春朝、山本 高邨、砂本 杏花	河北 秀也
出品料	協会員 1点目 3,500円 その他の方 4,500円 2点目からはすべて 1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開作品に限る ・点数は制限なし ・小・中学校在学者は出品できない ・大きさ制限なし（ただし、平面作品はタテ1.8×ヨコ1.5m以内） ・木・竹・金工・陶磁・漆・染色・織物・人形・ガラス等 ・展示できる用具をつける 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・B1パネル（横728×縦1,030ミリ）厚さ5～75ミリ程度 重さ5kg以内 ・課題は自由（実在の商品名・会社名等は除く） ・法的規制に触れないこと ・吊り紐
入賞	特選 2点 準特選 4点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 8点 準特選 14点 奨励賞 13点 入選 規定数	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数

(注) ・落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること
 ・展示作品は第一期は10月18日(日)、第二期は10月28日(水)の午後5時から午後6時までに搬出すること
 ・所定の期日までに搬出しない場合は主催者において処分する

第 64 回 県 美 術 展

特別・招待・無鑑査・賛助出品者名

☆ 日 本 画

(特別出品)	長尾弘子	西野和男	
(招待)	橋本正弘	中川健	岡英彦
	土方るみ子	土井洋子	中西芳雄
	日浦猛史		
(賛助出品)	長谷壽		

☆ 洋 画

(特別出品)	佐野比呂志	梶田務	
(招待)	清水亟悞	楠瀬等	露口敏幸
	長尾弘久		
(無鑑査)	南城ミツ子		
(賛助出品)	岡多美子	河田安市寛	黒崎志郎
	後藤田仁一	松川寛	岡田守
	中辻奈美枝		

☆ 写 真

(特別出品)	西條征二	櫛淵魏	
(招待)	井上光雄	木田英之	勝西雅夫
	笹田敏雄	三好和義	上野照久
	森賢一	橋本圭祐	前浦芳謙
	荒井賢一	林敏彦	古井謙吉
	中野建吉	井藤光章	増田壽
	柳本正	大和健司	船越正文
	堀渕完	久保英樹	岩崎正英
(無鑑査)	森住博		

☆ 彫 刻

(特別出品)	河崎良行		
(招待)	佐藤隆	井下俊作	鎌田邦宏
	松永勉	居上真人	上月佳代
(賛助出品)	長岡強		

☆ 美術工芸

(特別出品)	七 條 猪三郎			
(招待)	高 橋 勇	多智花	佐代子	松 下 雄 介
	松 下 慶 一	森	賢 一	橋
	犬 伏 絢			
(賛助出品)	中 川 存	矢 野 款 一		

☆ 書 道

(特別出品)	新 居 藍 州	荒 井 彭 仙		
(招待)	宮 井 青 雨	長 原 田 原 聖		西 南 龍
	成 尾 莊 秀	原 田 霄 月		芝 原 醒 鶴
	前 川 古 舟	清 水 桂 月		美 馬 幾 美 賀
	春 藤 大 耿	中 川 上 史 子		長 谷 美 静 苑
	勝 瀬 景 流	川 上 虹 泉		近 藤 田 和 代
	日 下 溪 翠	岡 藤 若 美 風		竹 武 市 松 春 苑
	山 口 華 勝 子	富 坂 久 本 霄		永 浜 多 田 佳 清 芳
	中 尾 小 園 二	松 本 本 清 玲 泉		能 田 仁 華 瑤
	島 田 英 乾 香	薄 三		宇 山 泰 鳳
	高 田 青 蓮			
	龜 石 文 苑			
(無鑑査)	米 澤 東 籬	岩 本 志 豪		平 岡 幽 琴
(賛助出品)	東 南 光			

☆ デザイン

(特別出品)	福 井 章	坂 本 三千一		
(招待)	斎 藤 繁 次	坂 野 美恵子		敷 島 のり子

あ と が き

第17回放美展が5月2日(土)から6日(水・振替休日)まで、第64回県美術展が第1期が10月10日(土)から18日(日)まで、第2期が10月20日(火)から28日(水)まであわぎんホール(県郷土文化会館)で開催されましたが、出品数、観覧者数において減少傾向にあります。会員も年齢を重ねた方が退会をするなど減少傾向にあり、何か相互関係があるのでしょうか。いずれにしても、各部とも若い方ははいつてきてくれれば活気がでるようにも思われます。

例年のように各部会長から一年間の各部の動向や会員の消息をいただきましたのでごらん下さい。なお、毎年申し上げておりますが、会員の方で掲載したい情報は、年報の発行される前に各部会長とご相談くださるようお願いいたします。

今年の表紙は彫刻部の担当ということで濱口恵さんからいただきました。

最後になりましたが、会員の皆様には健康に留意されまして、ますます創作活動に励まれますよう祈念いたします。

平成22年3月

県美術家協会事務局

美 術 年 報 2010年

平成22年3月30日 印刷

平成22年3月31日 発行

編集者 清 水 博

装幀者 濱 口 恵

発行人 佐 野 比呂志

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会

(徳島市名東町1丁目246 清水方)
